

愛知学院大学短期大学部

2025 年度学生生活アンケート結果

2025 年度 学生生活アンケート 実施概要

本アンケートは、愛知学院大学学生委員会および学生部学生課が、本学における学生生活の現状を把握し、学生生活をより充実したものとするために、本学として取り組むべき課題を明らかにすることを目的として、平成元年（1989 年）より概ね 3～4 年ごとに実施してきたものである。

愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科においては、完成年度を迎えた平成 20 年（2008）度に第 1 回学生アンケートを実施して以降、定期的に調査を行ってきた。令和元年（2019）度からは IR・キャリアサポート委員会が実施主体となり、調査対象に専攻科を加え、短期大学部全体の学生生活を把握する体制を整えている。さらに、令和 3 年（2021）度以降は、学生の生活状況や学修環境の変化を継続的に把握するため、毎年度実施している。今回、第 9 回として令和 7 年（2025 年）度学生生活アンケートを実施した。

本アンケートの設問は、平成 25 年（2013）度実施された全学の「学生生活アンケート」を基礎としつつ、短期大学部歯科衛生学科の教育課程や学生の実情、社会状況の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行ってきた。近年の設問内容は、令和 3 年（2021）度を基本としながら一部改訂を加え、2025 年度調査においても同様の考え方に基づいて実施し、ディプロマ・ポリシーとの関連をより明確にするため、当該項目に関する設問を新たに加えた。

また、調査方法については、令和 3 年（2021）度に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、初めて Microsoft Forms を用いたオンライン方式を導入した。その後、対面授業の再開後も、利便性と集計の正確性を考慮し、講義終了時に教室内でオンライン回答を行う方法を基本として継続している。

2025 年度学生生活アンケートの実施期間、調査対象は以下のとおりである。

・アンケート実施期間

2025 年 12 月 10 日（水）～2025 年 12 月 22 日（月）

・対象（在籍数）

歯科衛生学科 1 年生：108 名

歯科衛生学科 2 年生：108 名

歯科衛生学科 3 年生：103 名

専攻科：10 名

・回答率

歯科衛生学科 1 年生：81.5%（88 名）

歯科衛生学科 2 年生：90.7%（98 名）

歯科衛生学科 3 年生：97.1%（100 名）

専攻科：90%（9 名）

なお、本報告では、単に全体傾向を示すだけでなく、学年進行に伴う学生生活や学修行動の変化にも着目しながら結果を整理した。これは、短期大学部歯科衛生学科の教育課程が学

年ごとに特色を有していることを踏まえ、結果をより適切に理解するためである。

本調査結果は、学生の実態を把握するための基礎資料として位置づけ、今後の教育内容や学生支援の改善、ならびに IR 活動・内部質保証の推進に活用していく。

2025 年度 学生生活アンケート結果の概要

2025 年度学生生活アンケートは、短期大学部歯科衛生学科および専攻科に在籍する学生を対象として実施し、学生の学修状況、学生生活の実態、学外活動、進路意識、ならびに教育内容や学生支援に対する満足度等について、多面的に把握することを目的としたものである。本報告では、全体的な傾向に加え、学年進行に伴う変化にも着目しながら、結果の概要を整理する。

学修に関する設問では、学年が上がるにつれて学修時間が増加する傾向が明確に見られた。特に3年生においては、国家試験や臨床実習を意識した主体的な学修行動がうかがえ、教育課程の進行と学生の学修行動が概ね対応していることが示された。一方で、1・2年生においては学修時間が比較的短い学生も多く、初年次・中間年次における学修習慣の形成については、引き続き工夫の余地があると考えられる。

学生生活全体に関しては、「学生生活が充実している」と感じている学生が大多数を占めており、とりわけ3年生ではその割合が高い結果となった。これは、専門科目や実習を通じて歯科衛生士としての役割や将来像を具体的に意識できる段階に至っていることが、学生生活の満足度につながっているものと考えられる。

学外活動については、アルバイト経験を有する学生がほぼ全員に近い状況であり、多くの学生が学修と並行して就労経験を積んでいる実態が明らかとなった。勤務時間や収入には幅が見られるものの、アルバイト収入の使途としては、生活費や通学費の補填に加え、趣味や貯金など、学生生活を支える目的で活用されている様子がうかがえた。一方、ボランティア活動については、参加経験や参加意向ともに学年が上がるにつれて低下する傾向が見られ、学修・実習負担との関係を踏まえた支援や情報提供の在り方が今後の検討課題として示唆された。

進路に関する設問では、3年生の多くが歯科衛生士としての就職を明確に意識しており、学年進行に伴う進路意識の成熟が確認された。就職対策に対する満足度も概ね良好であり、キャリア支援が一定の役割を果たしていることがうかがえる。一方で、1・2年生においては「まだ分からない」とする回答も一定数存在しており、早期からの段階的なキャリア意識形成の重要性が示された。

教育内容や学修環境に関する満足度については、学科全体、開講科目、講義・実習の内容、施設・設備等のいずれの項目においても、「満足」「ほぼ満足」とする回答が多数を占めていた。これらの結果から、現在の教育内容および学修環境は、多くの学生に一定程度支持されていると評価できる。一方で、図書館情報センターの利用頻度が低い傾向や、学生相談室の認知度・利用率が高くない点など、学内資源の活用という観点では課題も見られた。

生活習慣や安全意識に関する設問では、喫煙や違法薬物の使用に対して否定的な態度を示す学生が大多数を占めており、健全な生活意識が広く浸透していることが確認された。特に、入学時に実施している薬物乱用防止に関する講習等の取り組みが、学生の意識形成に一定の役割を果たしていることが示唆される結果であった。

以上のように、2025年度学生生活アンケートの結果からは、本学短期大学部歯科衛生学科における学生生活が全体として安定し、学年進行に伴って学修行動や進路意識が段階的に形成されている実態が明らかとなった。一方で、初年次における学修習慣の形成、学生相談体制や学内資源の活用促進など、今後の改善に向けた示唆も得られている。本報告書に示した結果を基礎資料として、引き続き教育内容および学生支援の充実に向けた検討を進めていく。

1. 基本情報

[問3]現在の住居形態を選択してください。

1. 自宅
2. 自宅外（下宿等）

問3表 全学年の選択肢別割合（％）

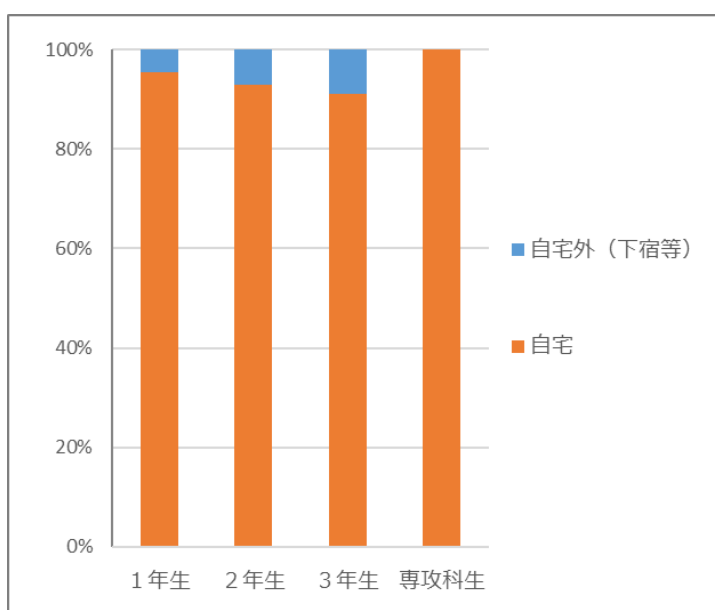
回答内容	今回	前回
1. 自宅	93.2	91.8
2. 自宅外（下宿等）	6.8	8.2
合計	100	100

本設問は、学生の住居形態について把握することを目的として実施したものである。

2025年度の調査結果においても、自宅から通学している学生が大多数を占めており、前年度と同様の傾向が認められた。自宅外から通学している学生は少数にとどまっており、本学短期大学部では、家族と生活基盤を共有しながら学修に取り組んでいる学生が多いことがうかがえる。

こうした住居形態は、通学環境や生活の安定性といった面から、学生生活を支える一因となっていると考えられる。今後も、学生一人ひとりの生活状況を踏まえた教育・学生支援の充実に資する基礎資料として、本設問の結果を活用していく予定である。

現在の居住形態



[問 4]授業料等の学費は誰が支払っているか選択してください。

1. 全額家庭から払っている
2. 半分以上は家庭から払っている
3. 全額奨学金で払っている
4. 半分以上は奨学金で払っている
5. 全額自分のアルバイト代で払っている
6. 半分以上は自分のアルバイト代で払っている
7. その他

問 4 表 全学年の選択肢別割合 (%)

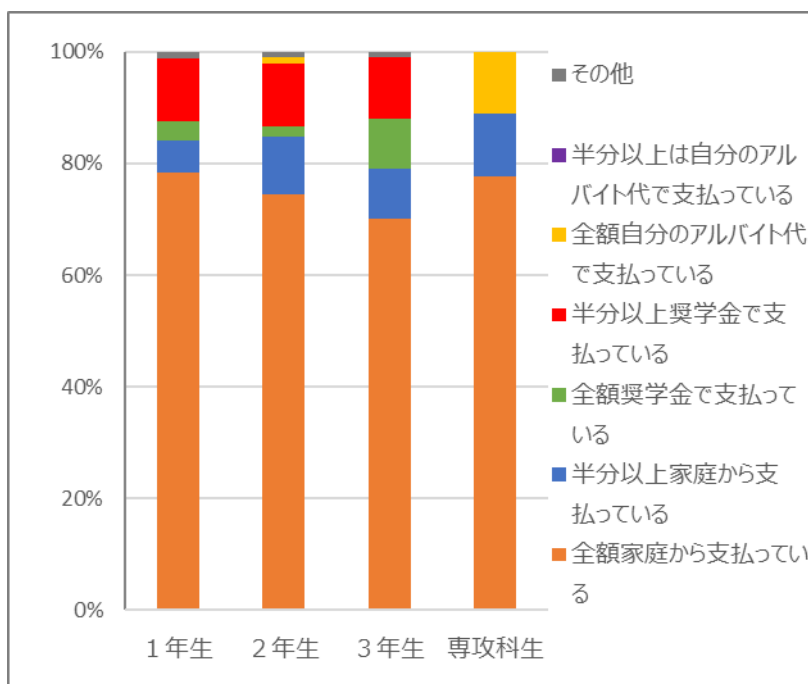
回答内容	今回	前回
1. 全額家庭から支払っている	74.2	76.1
2. 半分以上家庭から支払っている	8.5	8.2
3. 全額奨学金で支払っている	4.7	4.4
4. 半分以上奨学金で支払っている	10.8	9.6
5. 全額自分のアルバイト代で支払っている	0.7	0.7
6. 半分以上は自分のアルバイト代で支払っている	0.0	0.7
7. その他	1.0	0.3
合計	100	100

本設問は、学生の修学に関わる経済的背景を把握することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、学費を主に家庭が負担している学生が大多数を占めており、この傾向は前年度から大きな変化は見られなかった。一方で、奨学金を活用して学費を支払っている学生も一定数存在しており、多様な支援制度を活用しながら修学に取り組んでいる実態がうかがえる。

本学短期大学部では、学生が安心して学修を継続できるよう、奨学金制度を含めた各種支援に関する情報提供を行っている。今後も、本設問の結果を基礎資料として、学生の経済状況に配慮した学生支援の在り方について検討を進めていく。

学費の支払者



[問5] 家庭からもらっている月あたりの金額を選択してください。

1. もらっていない
2. 30,000円未満
3. 30,000～50,000円未満
4. 50,000円以上

問5表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. もらっていない	69.2	68.6
2. 30,000円未満	22.0	20.5
3. 30,000円以上50,000円未満	6.8	6.5
4. 50,000円以上	2.0	4.4
合計	100	100

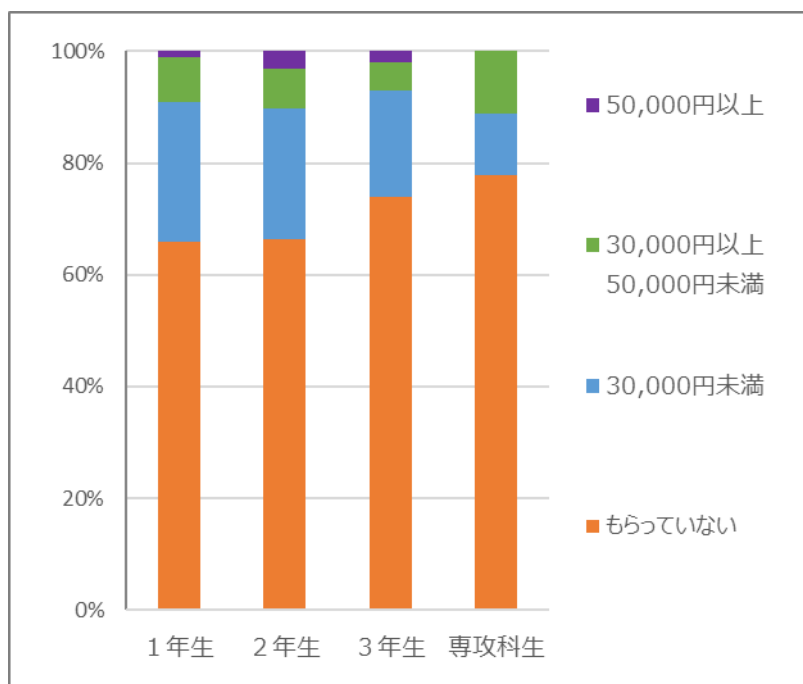
本設問は、学生の生活状況を把握する一助として、家庭からの経済的支援の状況について確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「もらっていない」と回答した学生が最も多く、家庭から金銭的支援を受けている場合でも、その金額は比較的少額にとどまる傾向が示された。この結果は前

年度と同様の傾向であり、多くの学生が家庭からの定期的な小遣いに依存せず、生活を送っている実態がうかがえる。

本学短期大学部では、学生の多くがアルバイト等を含め、自身の生活費を工面しながら修学に取り組んでいる状況を踏まえ、今後も学生生活全体を見通した支援の在り方について検討していくための基礎資料として、本設問の結果を活用していく。

小遣いの金額



[問 6] 平均睡眠時間を選択してください。

1. 3時間未満
2. 3時間以上 5時間未満
3. 5時間以上 7時間未満
4. 7時間以上 9時間未満
5. 9時間以上

問6表 全学年の選択肢別割合（％）

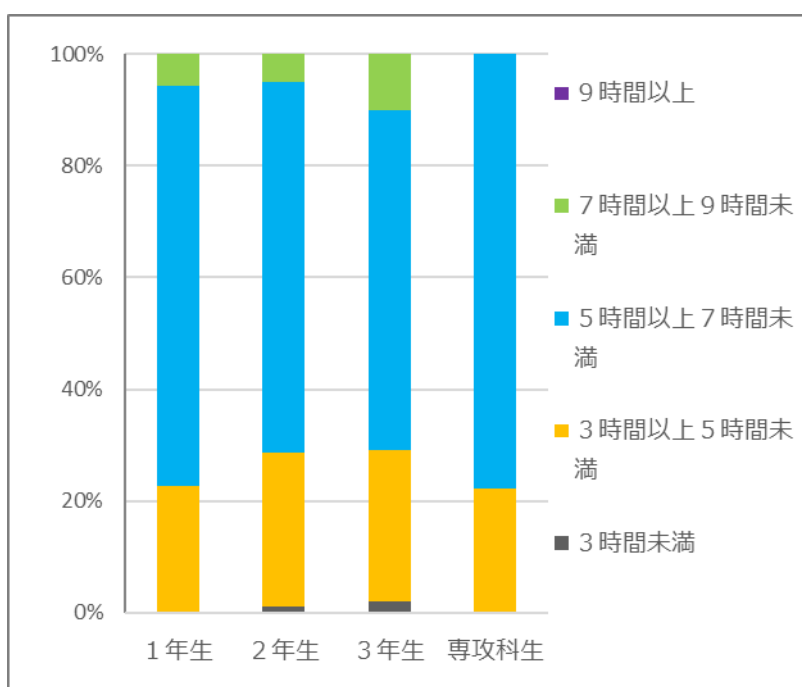
回答内容	今回	前回
1. 3時間未満	1.0	0.7
2. 3時間以上5時間未満	25.8	25.9
3. 5時間以上7時間未満	66.4	65.9
4. 7時間以上9時間未満	6.8	6.8
5. 9時間以上	0.0	0.7
合計	100	100

本設問は、学生の生活リズムや健康状況を把握するため、日常的な睡眠時間について確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「5時間以上7時間未満」と回答した学生が最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」が続いており、全体としては前年度と同様の傾向が認められた。多くの学生が一定の睡眠時間を確保している一方で、学修やアルバイト等の影響により、睡眠時間が比較的短い学生も一定数存在することがうかがえる。

睡眠は学修の質や日常生活の充実に関わる重要な要素であることから、本学短期大学部では、学生一人ひとりが心身の健康に留意しながら学生生活を送ることができるよう、今後本設問の結果を生活支援や学生指導の参考資料として活用していく予定である。

平均睡眠時間



2. 通学状況

[問7]現在どこに住んでいるか選択してください。

1. 名古屋市内
2. 名古屋市以外の愛知県
3. 岐阜県
4. 三重県
5. 静岡県
6. その他

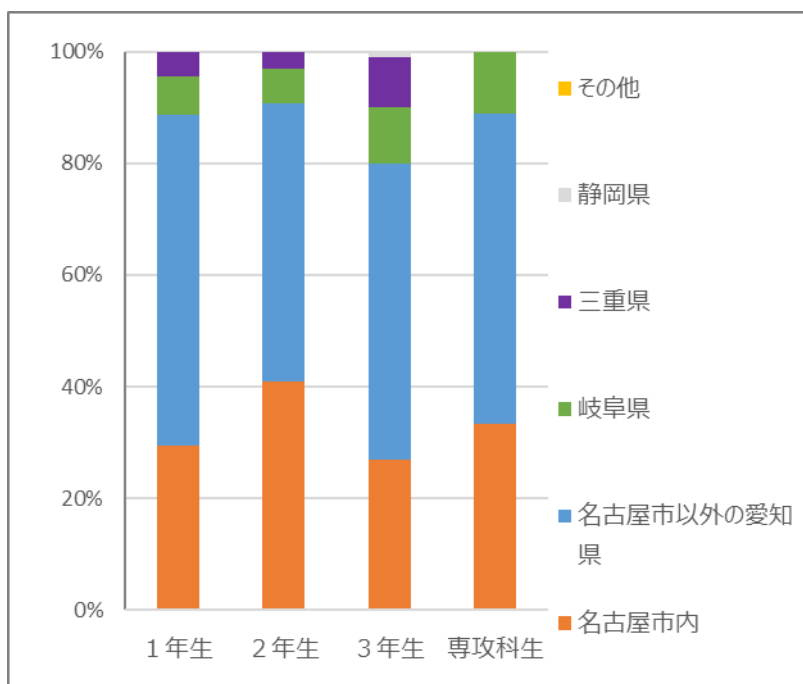
問7表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. 名古屋市内	32.5	32.1
2. 名古屋市以外の愛知県	53.9	53.6
3. 岐阜県	7.8	7.2
4. 三重県	5.4	6.5
5. 静岡県	0.3	0.3
6. その他	0.0	0.3
合計	100	100

本設問は、学生の通学圏や生活環境を把握することを目的として実施したものである。2025年度の結果では、名古屋市内および愛知県内から通学している学生が大多数を占めており、この傾向は前年度と同様であった。一方で、近隣県から通学している学生も一定数存在しており、本学短期大学部が広い地域から学生を受け入れている実態がうかがえる。

居住地域は通学手段や通学時間とも密接に関係することから、本設問の結果は、学生の学修環境や生活リズムを理解するための基礎資料として重要である。今後も、学生の多様な生活背景を踏まえ、教育および学生支援の充実に活用していく予定である。

現在の住所



[問 8]次の中から現在利用している通学手段を選択してください。(複数回答可)

1. 電車
2. バス
3. 自転車
4. 徒歩
5. その他

問 8 表 全学年の選択肢別割合 (%)

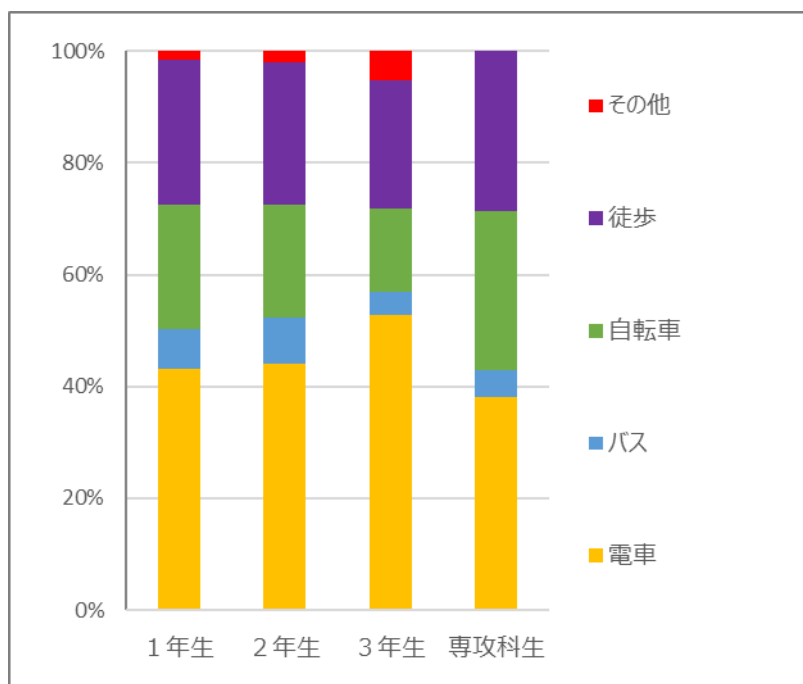
回答内容	今回	前回
1. 電車	46.2	50.1
2. バス	6.5	6.3
3. 自転車	19.5	14.9
4. 徒歩	25.0	25.5
5. その他	2.8	3.2
合計	100	100

本設問は、学生が日常的に利用している通学手段について把握し、通学環境の実態を確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、電車を利用して通学している学生が最も多く、次いで徒歩や自転車が続き、全体として前年度と同様の傾向が認められた。公共交通機関と徒歩を組み合わせた通学形態が中心であることから、本学短期大学部の学生にとって、比較的安定した通学環境が確保されていることがうかがえる。

通学手段は、通学時間や生活リズム、安全面とも関係する重要な要素である。本設問の結果は、学生の通学実態を理解するための基礎資料として、今後の学生支援や学修環境の検討に活用していく予定である。

通学手段



[問9]平均通学所要時間（片道）を選択してください。

1. 1時間未満
2. 1時間以上2時間未満
3. 2時間以上

問9表 全学年の選択肢別割合（％）

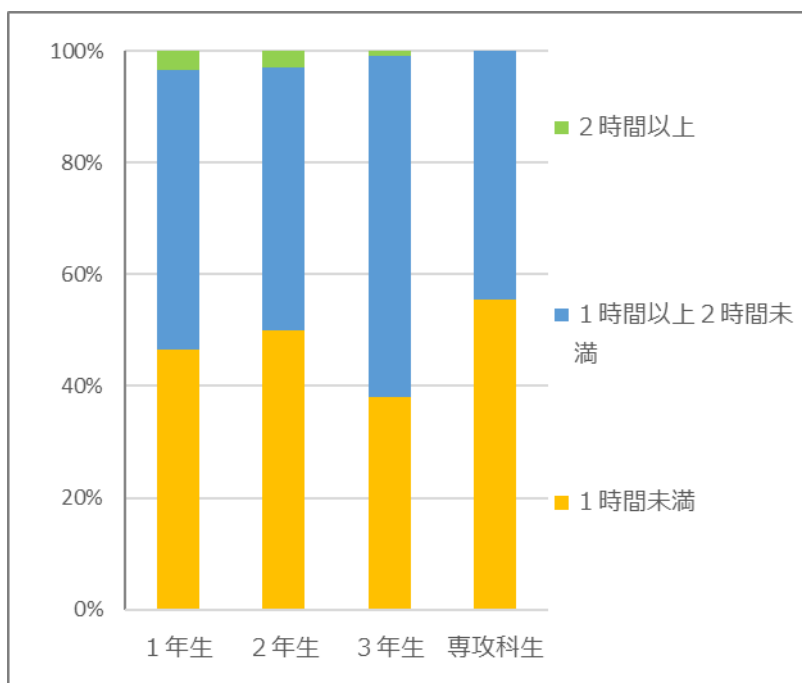
回答内容	今回	前回
1. 1時間未満	45.1	43.3
2. 1時間以上2時間未満	52.5	54.3
3. 2時間以上	2.4	2.4
合計	100	100

本設問は、学生の通学負担や生活リズムを把握するため、片道の通学所要時間について確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「1時間未満」および「1時間以上2時間未満」と回答した学生が大多数を占めており、前年度と同様の傾向が認められた。多くの学生が日常的な通学が可能な範囲から通学していることがうかがえる。

通学所要時間は、学修時間の確保や生活リズム、心身の負担にも関わる要素である。本設問の結果は、学生の通学状況を総合的に理解するための基礎資料として、今後も学生支援や学修環境の検討に活用していく予定である。

通学所要時間（片道）



3. 大学生生活

[問10]授業以外で教員と話をすることはありますか。

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない
4. 全くない

問10表 全学年の選択肢別割合（％）

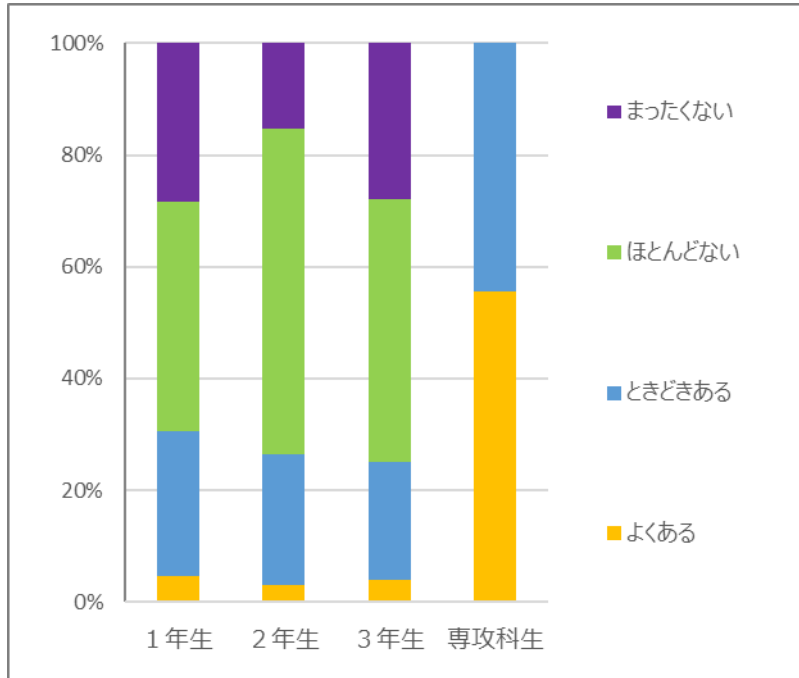
回答内容	今回	前回
1. よくある	5.4	4.1
2. ときどきある	24.1	25.3
3. ほとんどない	47.5	47.1
4. まったくない	23.1	23.5
合計	100	100

本設問は、学生と教員との日常的な関わりの実態を把握することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、授業以外でも教員と会話をする機会が「よくある」「ときどきある」と回答した学生が一定数見られる一方で、「ほとんどない」「まったくない」と回答した学生も多く、学生によって教員との関わり方に幅があることがうかがえた。この傾向は前年度と同様であり、学年や学修状況、個々の相談ニーズ等によって、教員との接点の持ち方が異なるものと考えられる。

教員との授業外での対話は、学修面のみならず学生生活全般の充実にもつながる重要な要素であることから、本学短期大学部では、学生が必要に応じて教員に相談しやすい環境づくりを重視している。今後も、本設問の結果を踏まえ、学生と教員との適切な関係構築を支える取り組みについて検討していく。

教員との会話の頻度



[問 11] 昼食をおもにどこで食べるか選択してください。

1. 自宅（下宿含む）で食べる
2. 短大部棟講義室（空き教室）で食べる
3. 短大部棟2階マグネットラウンジで食べる
4. 薬学部棟1階学生ホールで食べる
5. 4号館学食で食べる
6. 月見坂テラス（末盛キャンパスにある）で食べる
7. 臨床教育研究棟の更衣室で食べる
8. 臨床教育研究棟1～6階のオープンスペースで食べる
9. 臨床教育研究棟2階にあるラーニングカフェで食べる
10. 学外の飲食店で食べる
11. ほとんど食べない
12. その他

問 11 表 全学年の選択肢別割合 (%)

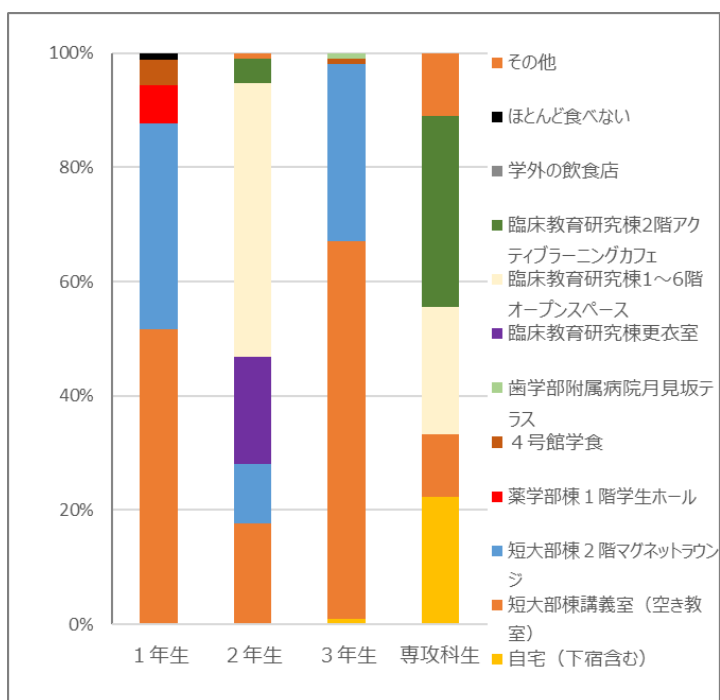
回答内容	今回	前回
1. 自宅（下宿含む）	1.0	1.7
2. 短大部棟講義室（空き教室）	44.1	51.5
3. 短大部棟 2 階マグネットラウンジ	24.7	19.8
4. 薬学部棟 1 階学生ホール	2.0	1.7
5. 4 号館学食	1.7	2.4
6. 歯学部附属病院月見坂テラス	0.3	2.7
7. 臨床教育研究棟更衣室	6.1	6.1
8. 臨床教育研究棟 1～6 階オープンスペース	16.3	10.6
9. 臨床教育研究棟 2 階アクティブラーニングカフェ	2.4	1.7
10. 学外の飲食店	0.0	0.0
11. ほとんど食べない	0.7	0.3
12. その他	0.7	1.4
合計	100	100

本設問は、学生が日常の大学生活の中で、昼食をどのような場所で摂取しているかを把握し、学内環境や生活実態を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、学内の講義室やラウンジ、学内施設等で昼食をとっている学生が多く、全体として前年度と同様の傾向が認められた。学内で昼食をとる学生が大多数を占めていることから、授業の合間や学修活動と連続した形で、キャンパス内で学生生活を送っている様子がうかがえる。

昼食をとる場所は、学修環境や学生同士の交流とも関係する要素である。本設問の結果は、学生が快適に過ごせるキャンパス環境の整備や、学内施設の活用状況を検討するための基礎資料として、今後も活用していく予定である。

昼食の摂取場所



[問 12]学内の図書館情報センターをどの程度利用しているか選択してください。

1. ほぼ毎日利用している
2. 週に2～3日利用している
3. 1ヶ月に数日利用している
4. テスト前やレポート提出のときだけ利用している
5. ほとんど利用していない

問 12 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. ほぼ毎日利用している	0.0	0.0
2. 週に2～3日利用している	1.0	0.7
3. 1か月に数日利用している	1.4	1.4
4. テスト前やレポート提出のときにだけ利用している	18.3	13.0
5. ほとんど利用していない	79.3	85.0
合計	100	100

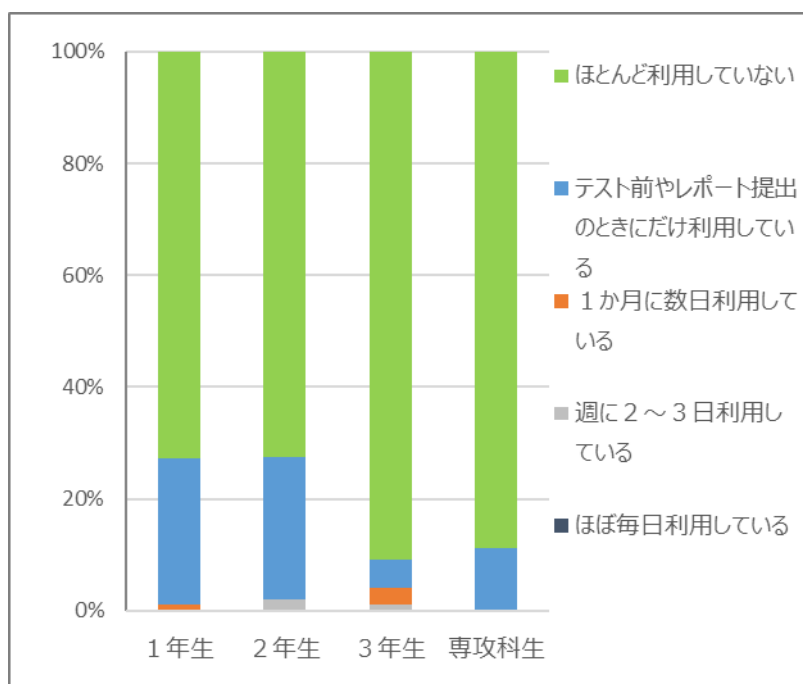
本設問は、学修環境の一つである図書館情報センターの利用状況について把握し、学生の学修行動や学内資源の活用実態を確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果を学年別に見ると、いずれの学年においても図書館情報センターの利用頻度は高いとは言えず、特に3年生では「ほとんど利用していない」と回答した学生の割合が高い傾向が見られた。一方、1・2年生では「テスト前やレポート提出時に利用している」とする回答が比較的多く、学年によって利用目的や利用機会に違いがあることがうかがえる。

これは、学年進行に伴い学修形態が座学中心から実習・臨床実習中心へと移行し、学修の場や必要とする学修資源が変化していることを反映した結果であると考えられる。すなわち、図書館情報センターの利用頻度の低さは、必ずしも学生の学修意欲の低下を示すものではなく、教育課程の構造や学修スタイルの変化と密接に関連している可能性が高い。

本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、学生の学年段階や学修内容に応じた学内資源の活用の在り方について検討するとともに、図書館情報センターが実習期や臨床期の学修においても有効に活用されるための環境整備や情報提供の方法について、今後の課題として整理していく。

図書館の利用頻度



[問 13] 1日の平均勉強時間はどのくらいか選択してください。

1. ほとんどしない
2. 約1時間
3. 約2時間

4. 約3時間以上
5. 特に決まっていない

問13表 全学年の選択肢別割合（％）

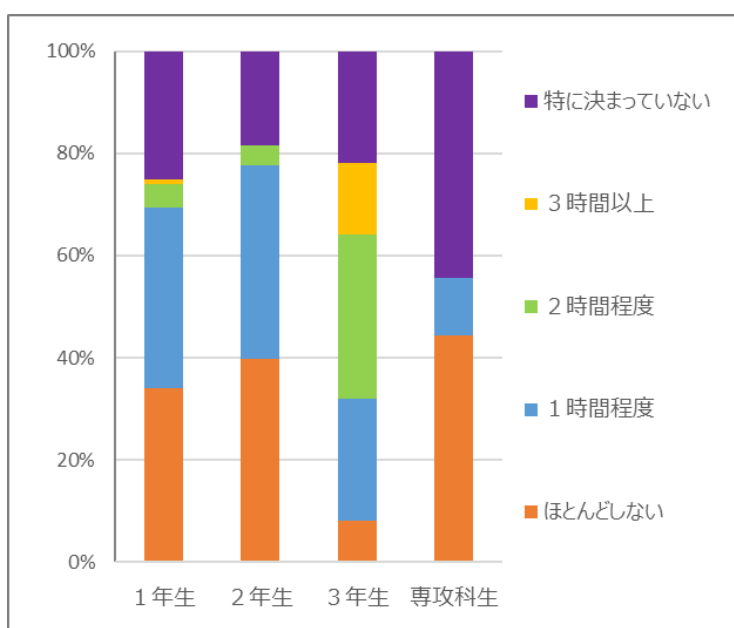
回答内容	今回	前回
1. ほとんどしない	27.5	36.9
2. 1時間程度	31.5	30.4
3. 2時間程度	13.6	10.9
4. 3時間以上	5.1	2.7
5. 特に決まっていない	22.4	19.1
合計	100	100

本設問は、学生の日常的な学修行動の実態を把握するため、1日の平均的な勉強時間について確認することを目的として実施したものである。

2025年度の結果を学年別に見ると、1・2年生では「ほとんどしない」「1時間程度」と回答した学生が多い一方、3年生では「2時間程度」および「3時間以上」と回答した学生が大きく増加しており、学年進行に伴う学修時間の変化が明確に示された。

これは、学年が上がるにつれて専門科目や実習の比重が高まり、国家試験や卒業後の進路を意識した学修が求められるようになることを反映した結果と考えられる。本設問の結果は、学修行動が学年段階に応じて質・量ともに変化していることを示すものであり、教育課程の構成と学生の学修実態が概ね対応していることを示唆している。

1日の平均勉強時間



[問 14]学内に学生相談室が開設されているのを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問 14 表 全学年の選択肢別割合 (%)

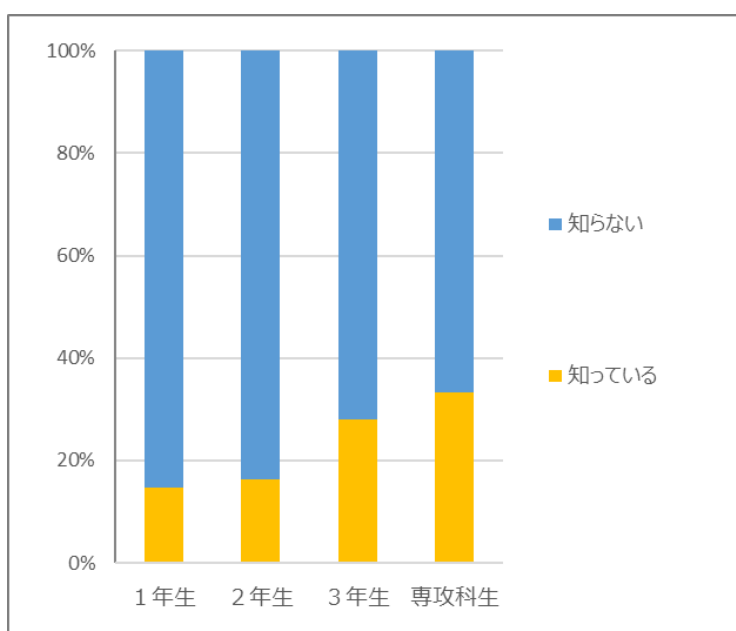
回答内容	今回	前回
1. 知っている	20.3	18.8
2. 知らない	79.7	81.2
合計	100	100

本設問は、学内に設置されている学生相談室について、学生がその存在をどの程度認知しているかを把握することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、学生相談室の存在を「知っている」と回答した学生は一定数にとどまり、「知らない」と回答した学生が多くを占めていた。この傾向は前年度と同様であり、学生相談室に関する情報が必ずしも学生全体に十分に行き渡っていない状況がうかがえる。

学生相談室は、学修上の悩みや学生生活に関する相談など、学生を幅広く支援するための重要な窓口である。本設問の結果を踏まえ、今後は学生相談室の役割や利用方法について、より分かりやすい情報提供の在り方を検討し、学生が必要なときに適切な支援につながるができる環境整備に活かしていく予定である。

学生相談室の認知度



[問 15] 学生相談室の利用状況について選択してください。

1. 利用したことがあり、これからも機会があれば利用したい
2. 利用したことがあるが、これからは利用したくない
3. 利用したいが、行きにくい
4. 利用したことはないが、必要があれば利用したい
5. 利用したことがなく、今後も利用しないと思う

問 15 表 全学年の選択肢別割合 (%)

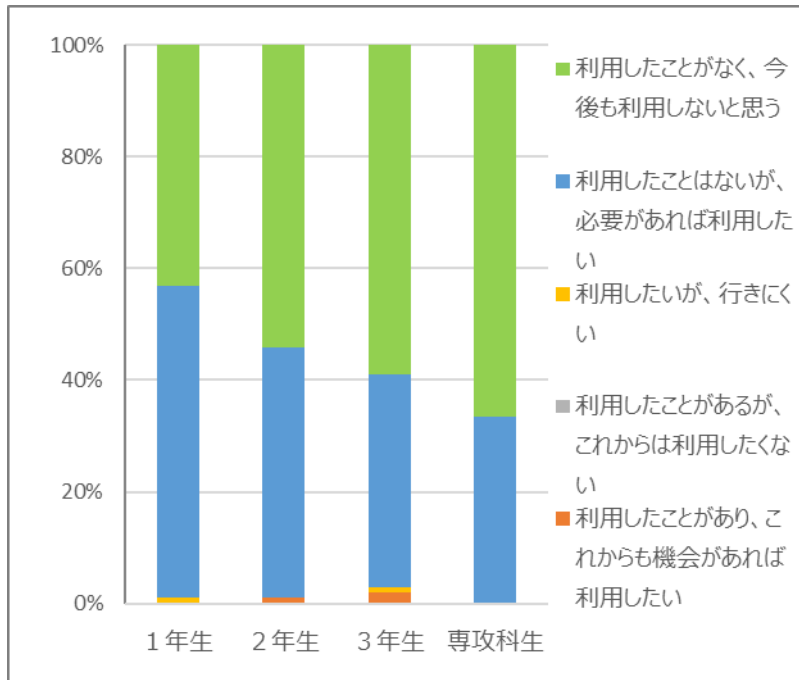
回答内容	今回	前回
1. 利用したことがあり、これからも機会があれば利用したい	1.0	0.7
2. 利用したことがあるが、これからは利用したくない	0.0	0.3
3. 利用したいが、行きにくい	0.7	0.7
4. 利用したことはないが、必要があれば利用したい	45.4	42.7
5. 利用したことがなく、今後も利用しないと思う	52.9	55.6
合計	100	100

本設問は、学内に設置されている学生相談室について、学生の利用経験や今後の利用意向を把握することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、実際に学生相談室を利用した経験がある学生は少数である一方、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」と回答した学生が一定数見られた。また、「今後も利用しないと思う」と回答した学生も多く、学生によって相談ニーズや支援への距離感に違いがあることがうかがえる。

学生相談室は、個々の学生が抱える多様な悩みに対して、本人の意思に基づき利用される支援の場である。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、学生が自身の状況や必要性に応じて支援を選択できるよう、学生相談室の役割や利用の在り方について引き続き工夫と検討を重ねていく予定である。

学生相談室の利用状況



[問 16]次の中から悩んでいることを選択してください。(複数回答可)

1. 勉学の問題
2. 就職等、将来の進路の問題
3. 対人・異性関係の問題
4. 家庭内の問題
5. 性格・能力の問題
6. 経済上の問題
7. 思想・生き方の問題
8. 健康の問題
9. その他
10. 特にない

問 16 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 勉学の問題	36.3	31.3
2. 就職等、将来の進路の問題	18.2	21.9
3. 対人・異性関係の問題	4.4	6.2
4. 家庭内の問題	6.9	1.4
5. 性格・能力の問題	7.6	5.9
6. 経済上の問題	4.2	3.9
7. 思想・生き方の問題	2.3	2.3
8. 健康の問題	3.3	3.0
9. 特にない	16.4	24.0
10. その他	0.4	0.2
合計	100	100

本設問は、学生が現在どのような事柄について悩みや不安を感じているかを把握し、学生支援の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

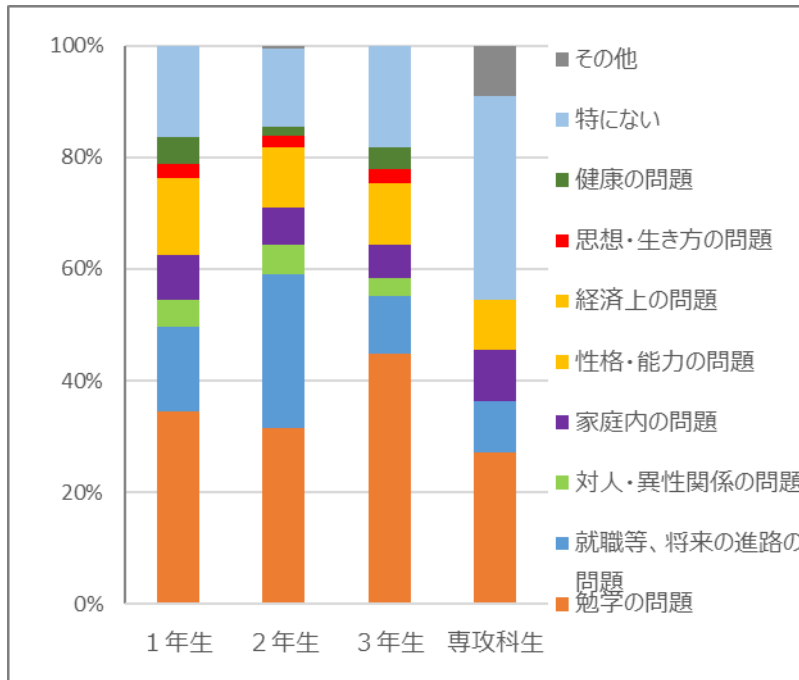
2025 年度の結果では、「特にない」と回答した学生が一定数いる一方で、「勉学の問題」や「就職等、将来の進路の問題」を挙げた学生が多く見られた。この結果から、多くの学生が学修や将来に関わる課題と向き合いながら学生生活を送っている様子がうかがえる。悩みの内容は学生によって多様であり、学年や修学段階、個々の状況に応じて異なるものと考えられる。

学年別に見ると、いずれの学年においても「勉学の問題」を挙げる学生が多い一方、2 年生では「就職等、将来の進路の問題」を挙げる割合が高く、進路に対する意識や不安が顕在化する学年段階であることがうかがえる。一方、3 年生では進路に関する回答が相対的に減少し、学修や実習等、目前の課題に意識が向いている様子が見られた。

この結果は、学生の悩みの内容が学年進行に応じて変化していることを示しており、学年段階に応じた支援や情報提供の重要性を示唆するものである。

本学短期大学部では、学生一人ひとりが抱える悩みや不安の内容を一律に捉えるのではなく、それぞれの背景や状況に配慮した支援が重要であると考えている。本設問の結果を踏まえ、今後も学生相談室や教職員による支援体制を含め、学生が必要に応じて相談できる環境づくりに活かしていく予定である。

現在の悩んでいること



[問 17] 誰に悩み事の相談をするか選択してください。(複数回答可)

1. 家族（身内）に相談する
2. 学内の友人に相談する
3. 学外の友人に相談する
4. クラブ・サークルの先輩に相談する
5. 教員に相談する
6. 事務職員に相談する
7. 学生相談室のカウンセラーに相談する
8. 学外の医師、カウンセラー等に相談する
9. 適切な相談相手がない
10. その他

問 17 表 全学年の選択肢別割合（％）

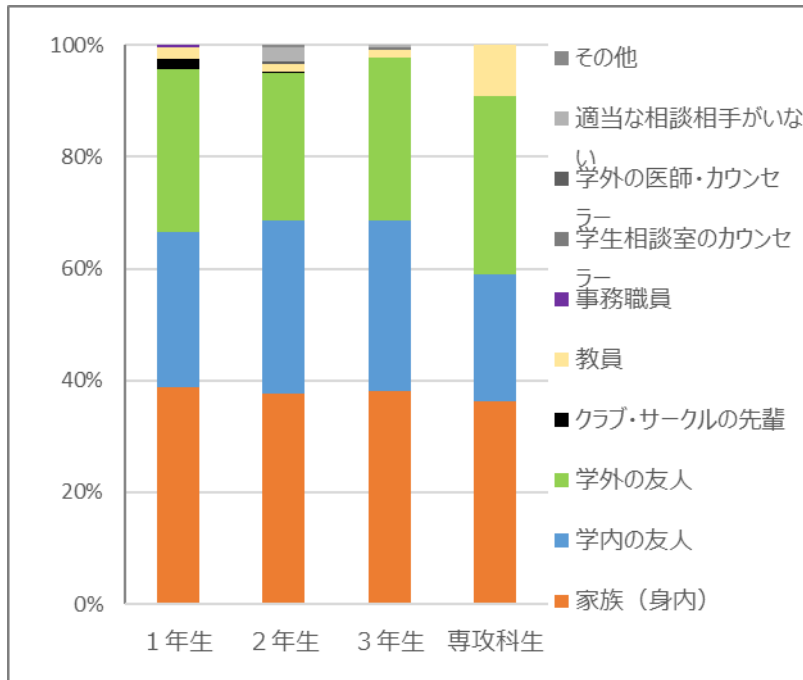
回答内容	今回	前回
1. 家族（身内）	38.1	34.9
2. 学内の友人	29.6	30.9
3. 学外の友人	28.3	29.8
4. クラブ・サークルの先輩	0.7	0.8
5. 教員	1.7	2.0
6. 事務職員	0.1	0.2
7. 学生相談室のカウンセラー	0.1	0.2
8. 学外の医師・カウンセラー	0.1	0.0
9. 適当な相談相手がない	1.0	1.2
10. その他	0.1	0.2
合計	100	100

本設問は、学生が悩みや不安を感じた際に、どのような相手に相談しているかを把握し、学生支援体制を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「家族（身内）」や「友人」に相談すると回答した学生が多くを占めており、学生にとって身近な人間関係が重要な相談先となっている様子が見られる。一方で、教員や学生相談室など学内の支援窓口を相談相手として挙げた学生は少数にとどまっており、相談内容や学生自身の状況に応じて、相談相手を選択している実態が見られた。

悩み事の相談先は、学生一人ひとりの性格や悩みの内容によって異なるものであり、特定の相談先に限られるものではない。本学短期大学部では、学生が必要に応じて家族や友人、教職員、学生相談室等、さまざまな選択肢の中から相談先を選ぶことができる環境づくりを重要と考えている。本設問の結果を踏まえ、今後も学生が安心して相談できる支援体制の在り方について検討を進めていく予定である。

悩み事の相談相手



[問 18]誰（どこ）に大学や学習に関する疑問、不満、要望を相談するか選択してください。（複数回答可）

1. 短期大学部事務室窓口
2. 学生相談室
3. 教員
4. 友人
5. 家族等
6. その他
7. どこ（誰）にも話さない
8. 疑問、不満、要望などはない

問 18 表 全学年の選択肢別割合 (%)

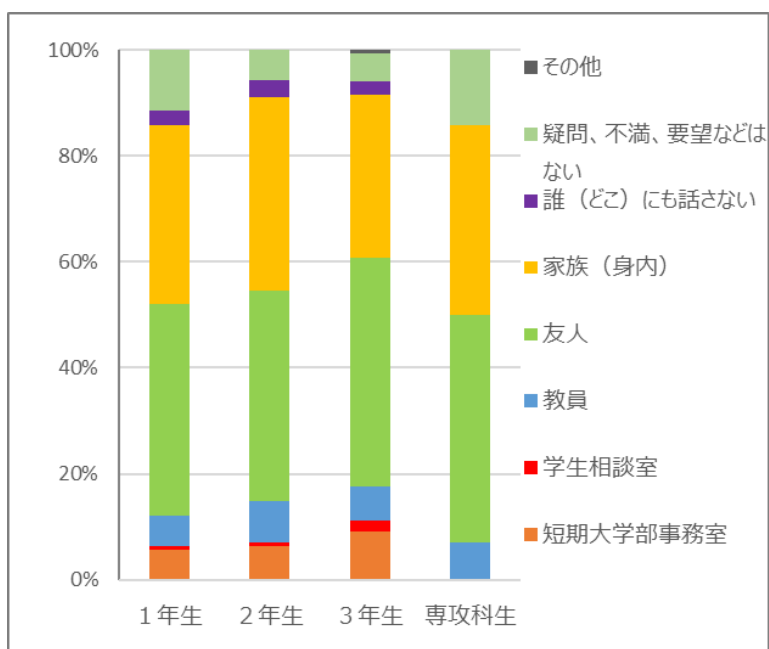
回答内容	今回	前回
1. 短期大学部事務室	6.9	7.8
2. 学生相談室	1.1	0.8
3. 教員	6.7	10.2
4. 友人	41.0	40.6
5. 家族（身内）	33.7	28.0
6. 誰（どこ）にも話さない	2.8	3.5
7. 疑問、不満、要望などはない	7.6	8.8
8. その他	0.2	0.4
合計	100	100

本設問は、学生が大学生活や学習に関して感じた疑問や要望について、どのような相手や窓口で相談しているかを把握し、学内の支援体制や情報提供の在り方を検討することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「友人」や「家族等」を相談先として挙げた学生が比較的多く、身近な関係の中で意見や疑問を共有している様子がうかがえる。一方で、教員や短期大学部事務室など、学内の公式な相談窓口を挙げた学生も一定数存在しており、内容に応じて相談先を使い分けている実態が示された。また、「疑問や要望はない」「どこにも話さない」と回答した学生も見られ、学生の受け止め方には多様性があることがうかがえる。

大学や学習に関する疑問・要望は、その内容や緊急性によって適切な相談先が異なる。本学短期大学部では、学生が状況に応じて教職員や事務室を含む学内の相談窓口を適切に利用できるよう、今後も情報提供や相談体制の整備に努めていく。本設問の結果は、学生の声を教育改善や学生支援に反映させるための重要な基礎資料として活用していく予定である。

大学・学習に関する疑問の相談相手



[問 19]次の中から短期大学の教育で要望したいことは何か選択してください。(複数回答可)

1. 専門教育を充実させてほしい
2. 教養教育を充実させてほしい
3. キャリア教育(就職活動)を充実させてほしい
4. 科目選択の幅を増やしてほしい
5. コンピューター教育を充実させてほしい
6. その他
7. 特に要望はない

問 19 表 全学年の選択肢別割合 (%)

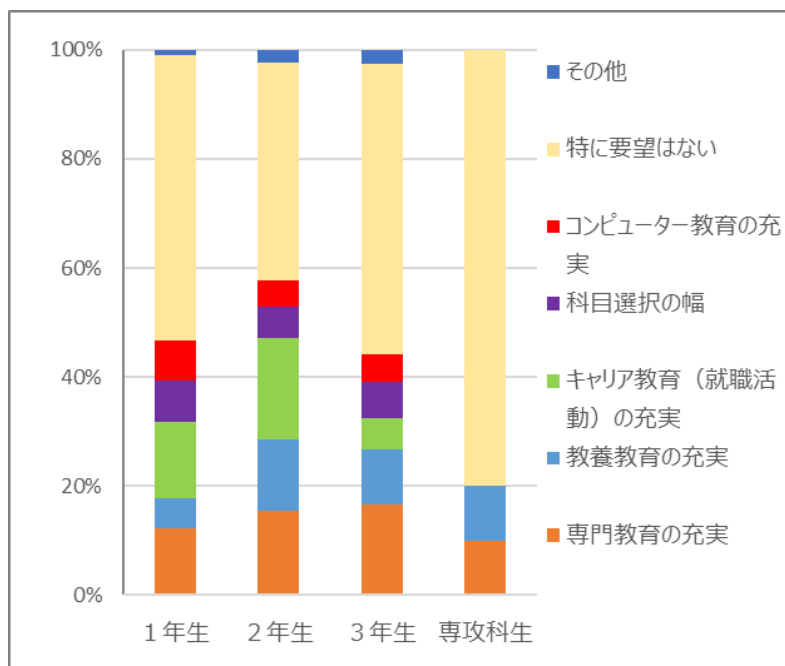
回答内容	今回	前回
1. 専門教育の充実	14.7	13.7
2. 教養教育の充実	9.7	8.1
3. キャリア教育(就職活動)の充実	12.5	12.6
4. 科目選択の幅	6.4	8.4
5. コンピューター教育の充実	5.6	6.7
6. 特に要望はない	49.2	49.7
7. その他	1.9	0.8
合計	100	100

本設問は、短期大学部における教育内容や教育体制について、学生がどのような要望を持っているかを把握し、今後の教育改善の参考とすることを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「特に要望はない」と回答した学生が最も多くを占めており、現在の教育内容や体制について、概ね受け入れられている状況がうかがえる。一方で、「専門教育の充実」や「キャリア教育（就職活動）の充実」などを要望として挙げた学生も一定数存在しており、学生が自身の将来を見据えながら教育内容に関心を寄せている様子が示された。この傾向は前年度と同様であった。

本学短期大学部では、学生の多様な要望や意見を重要な教育改善の手がかりと捉えている。本設問の結果を踏まえ、現在の教育内容を継続的に点検するとともに、専門性の向上やキャリア形成支援の充実など、学生の学びと将来につながる教育の在り方について、引き続き検討を進めていく予定である。

教育についての要望



[問 20] クラブ・サークルの所属について選択してください。

1. 学内の運動部に所属している
2. 学内の文化部に所属している
3. 学内の未公認サークルに所属している
4. 学外のサークルに所属している
5. 所属していない

問 20 表 全学年の選択肢別割合 (%)

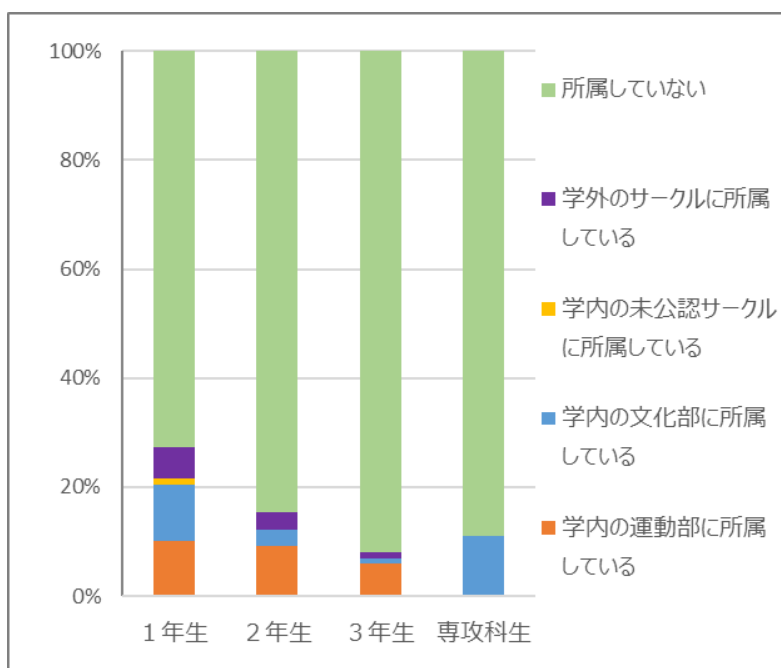
回答内容	今回	前回
1. 学内の運動部に所属している	8.1	7.2
2. 学内の文化部に所属している	4.7	3.4
3. 学内の未公認サークルに所属している	0.3	0.3
4. 学外のサークルに所属している	3.1	3.1
5. 所属していない	83.7	86.0
合計	100	100

本設問は、学生の課外活動への参加状況を把握し、学生生活の実態を多面的に理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「所属していない」と回答した学生が多くを占めており、この傾向は前年度と同様であった。一方で、学内外のクラブ・サークルや運動部、文化部に所属している学生も一定数存在しており、学生によって課外活動への関わり方に違いがあることがうかがえる。

医療系学科を中心とする本学短期大学部では、講義や実習、学外実習等に多くの時間を要することから、学生生活の中で課外活動に割ける時間や関わり方が学生ごとに異なるものと考えられる。本設問の結果は、学生の生活リズムや学修状況を踏まえた学生支援を検討するための基礎資料として、今後も活用していく予定である。

クラブ・サークルの所属状況



4. 学習成果（歯科衛生学科および専攻科）

歯科衛生学科および専攻科入学時と比べて、問 21～23 に示す短期大学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に示された「それぞれの能力」について、身についたかどうか、歯科衛生学科および専攻科に入学してから、これまでのすべての経験を総合して回答してください。

[問 21] 建学の精神を基に多様な価値観を持つ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション力を身につけている。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

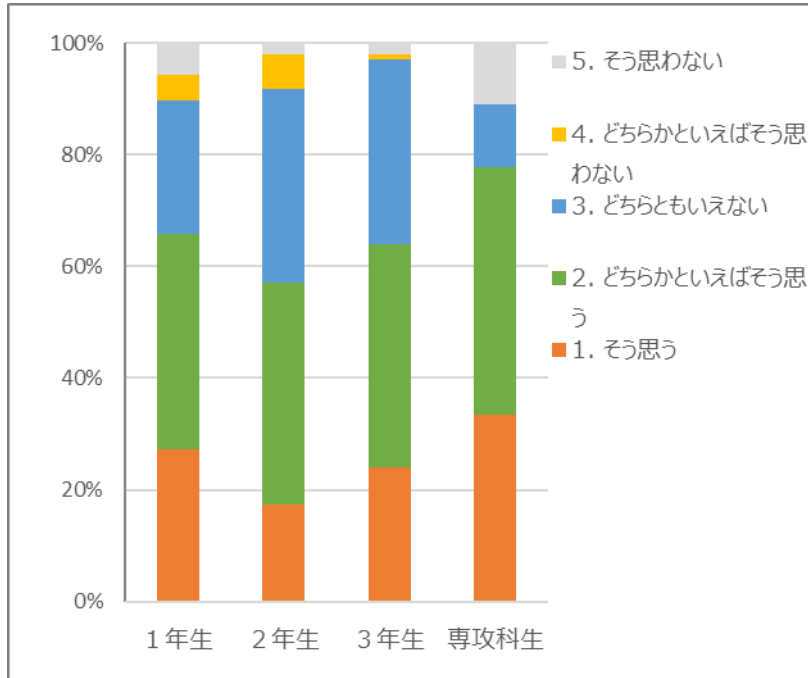
問 21 表 全学年の選択肢別割合（％）

回答内容	今回	前回
1. そう思う	23.1	
2. どちらかといえばそう思う	39.7	
3. どちらともいえない	30.2	
4. どちらかといえばそう思わない	3.7	
5. そう思わない	3.4	
合計	100	0

本設問については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学生が一定数を占めており、多様な人々との関わりを通して、自身のコミュニケーション力の向上を実感している学生が多いことがうかがえる。

本学短期大学部では、日常の講義・実習に加え、臨床実習や学外活動等を通じて、他者との協働や意思疎通の機会を重視しており、こうした教育経験が学生の自己評価にも反映されたものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 22] 幅広い教養を身につけ、社会の様々な課題を発見し、情報を収集して、理論的に分析・思考し、解決することができる。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

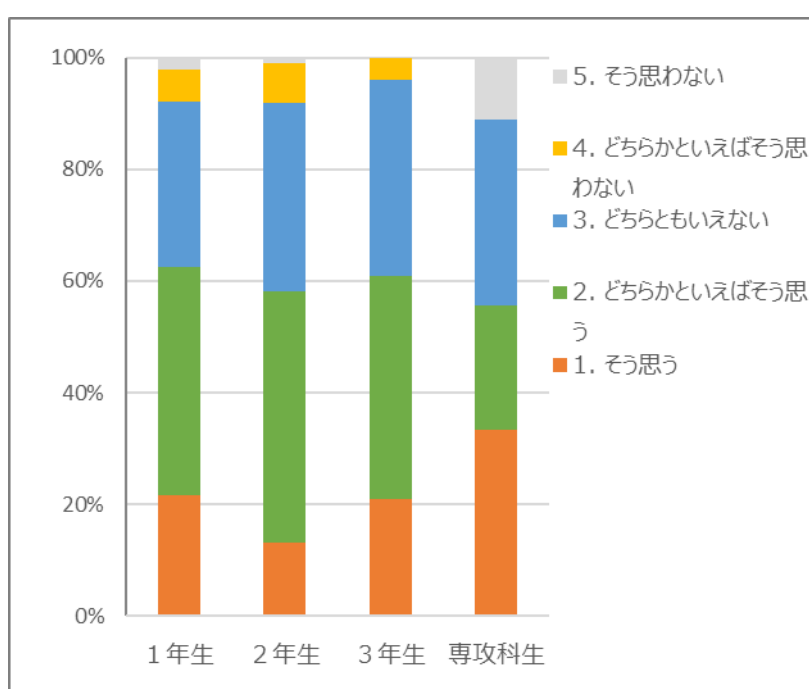
問 22 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. そう思う	19.0	
2. どちらかといえばそう思う	41.4	
3. どちらともいえない	32.9	
4. どちらかといえばそう思わない	5.4	
5. そう思わない	1.4	
合計	100	0

本設問では、「どちらかといえばそう思う」を中心に肯定的な回答が見られ、学生が自身の学修を通じて、一定の分析力・思考力を身につけていると認識している様子が見られる。

一方で、「どちらともいえない」とする回答も一定数存在しており、教養教育と専門教育を横断的に活用する力については、今後も学修経験の積み重ねを通じたさらなる深化が期待される。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 23] 短期大学部が求める専門分野に関する高度な知識・技能を修得している。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

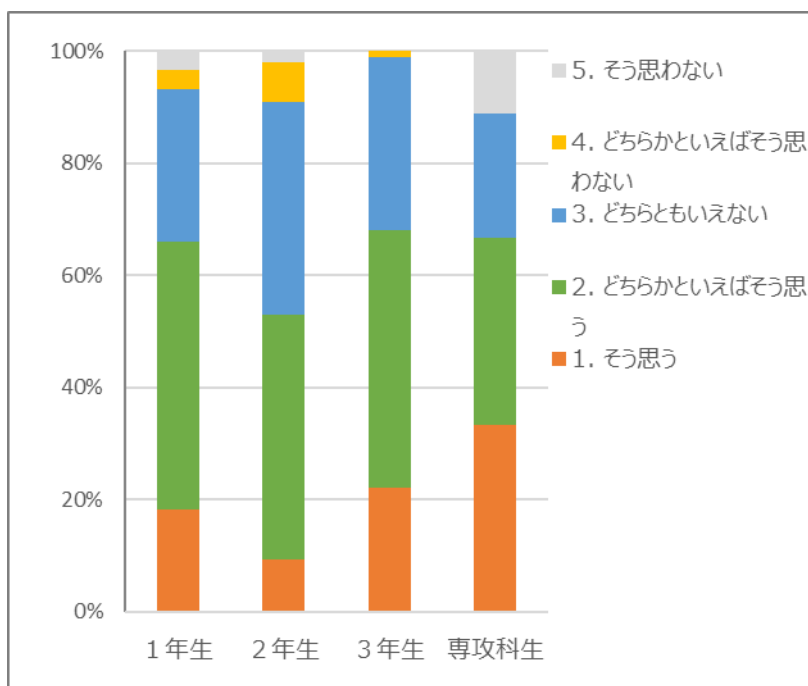
問 23 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. そう思う	16.9	
2. どちらかといえばそう思う	45.4	
3. どちらともいえない	31.9	
4. どちらかといえばそう思わない	3.7	
5. そう思わない	2.0	
合計	100	0

本設問では、専門分野に関する知識・技能について肯定的に捉えている学生が多く、短期大学部における専門教育の成果が、学生自身の手応えとして認識されていることが示唆される。

専門性の獲得は、講義のみならず実習や演習を通じて段階的に進むものであり、今後も学年進行に応じた教育内容の充実が重要であると考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



5. 学習成果（歯科衛生学科）

歯科衛生学科入学時と比べて、問 24～26 に示す歯科衛生学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に示された「それぞれの能力」について、身についたかどうか、歯科衛生学科に入学してから、これまでのすべての経験を総合して回答してください。

[問 24] 建学の精神を基に、人々の健康・保持増進に携わる医療人としての使命感と倫理観、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

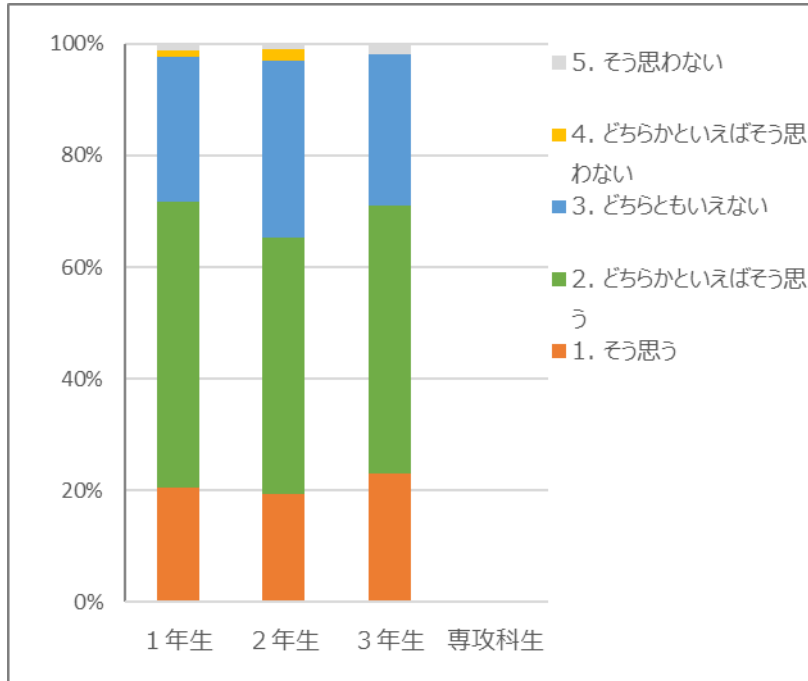
問 24 表 全学年の選択肢別割合（%） ※歯科衛生学科のみが対象

回答内容	今回	前回
1. そう思う	21.0	
2. どちらかといえばそう思う	48.3	
3. どちらともいえない	28.3	
4. どちらかといえばそう思わない	1.0	
5. そう思わない	1.4	
合計	100	

本設問では、歯科医療に携わる医療人としての自覚や倫理観について、肯定的に評価する学生が多く見られた。

歯科衛生学科では、専門知識・技能だけでなく、医療従事者としての態度や対人関係能力を重視した教育を行っており、臨床実習等を通じた実体験が学生の自己評価に結びついているものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 25] 幅広い教養を基に口腔保健の専門的知識、技能、態度を修得し、課題に対し情報の収集、理論的な分析・思考により問題解決することができる。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

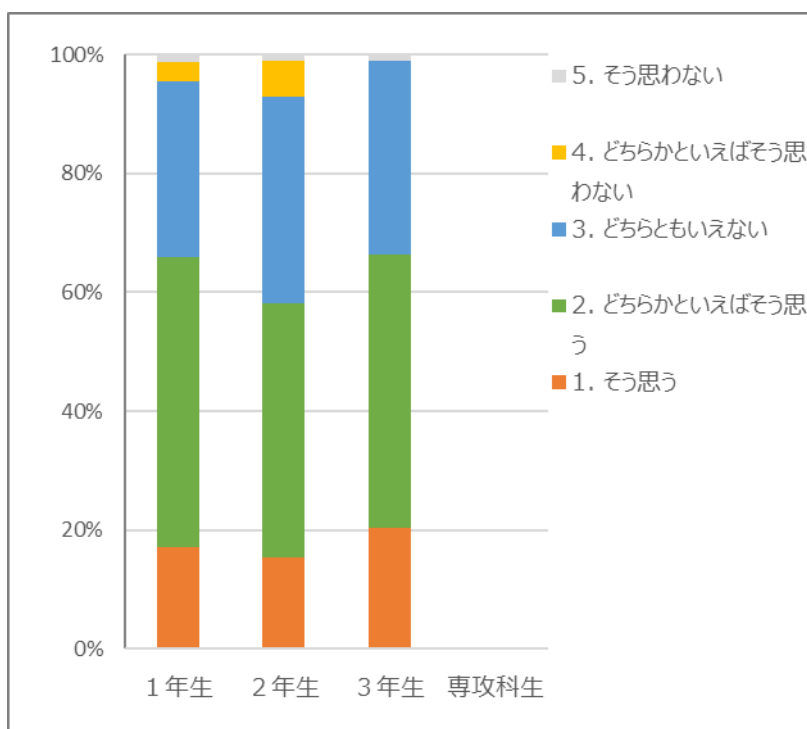
問 25 表 全学年の選択肢別割合 (%) ※歯科衛生学科のみが対象

回答内容	今回	前回
1. そう思う	17.5	
2. どちらかといえばそう思う	45.5	
3. どちらともいえない	32.2	
4. どちらかといえばそう思わない	3.1	
5. そう思わない	1.0	
無回答	0.7	
合計	100	

学生は、専門的知識・技能の修得について一定の達成感を示しており、歯科衛生士として必要な基礎的能力が着実に涵養されている様子がうかがえる。

一方で、課題解決力については、個々の学修経験や臨床実習への関わり方によって実感に差が生じやすい側面もあり、今後も実践的な学修機会の積極的な活用が重要である。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 26] 歯科医療の専門的知識、技能、態度を修得している。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

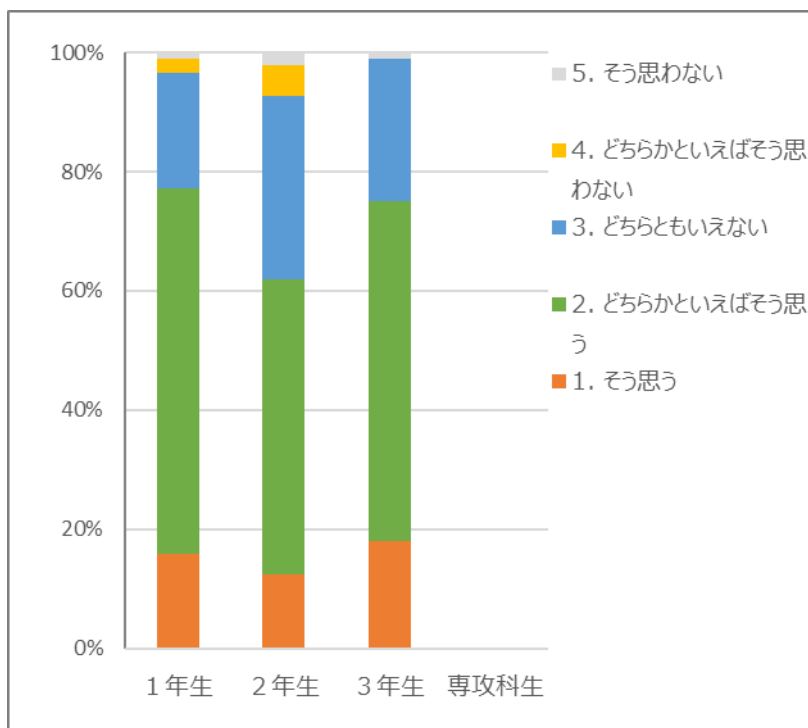
問 26 表 全学年の選択肢別割合 (%) ※歯科衛生学科のみが対象

回答内容	今回	前回
1. そう思う	15.4	
2. どちらかといえばそう思う	55.6	
3. どちらともいえない	24.8	
4. どちらかといえばそう思わない	2.4	
5. そう思わない	1.4	
無回答	0.3	
合計	100	

歯科医療に関する専門性について、多くの学生が肯定的に自己評価しており、本学科における講義・実習の積み重ねが一定の成果を上げていることが示唆される。

歯科医療の分野は卒業後も継続的な学びが求められる領域であり、在学中に身につけた基礎的専門性を土台として、生涯にわたる専門能力の向上につなげていくことが期待される。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



6. 学習成果（専攻科）

専攻科の方のみ問 27～29 に回答してください。

専攻科入学時と比べて、問 27～29 に示す専攻科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に示された「それぞれの能力」について、身についたかどうか、専攻科に入学してから、これまでのすべての経験を総合して回答してください。

〔問 27〕 建学の精神を基に、人々の健康生活を実現するため、医療従事者としての使命感と倫理観、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を活かし、リーダーシップを発揮することができる。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

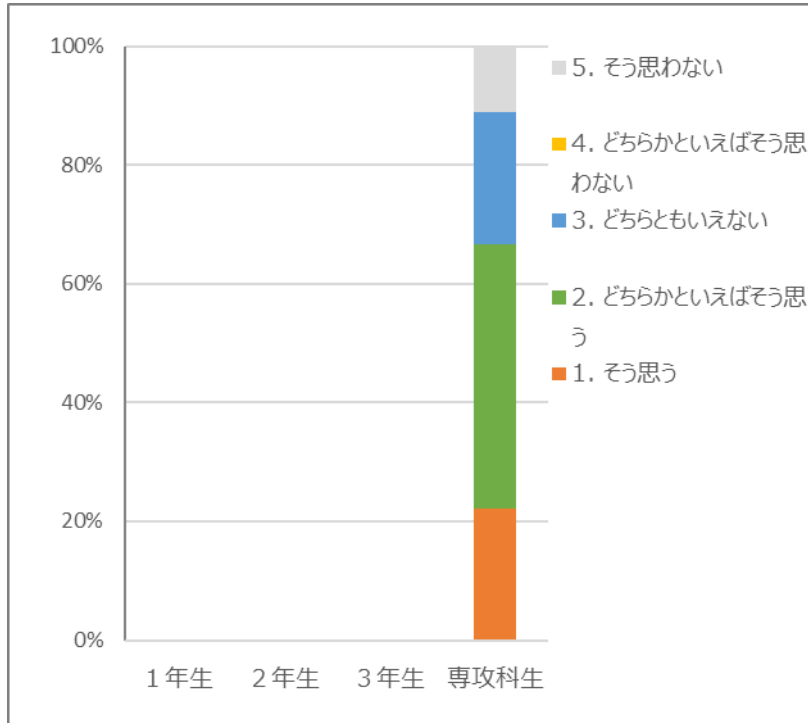
問 27 表 全学年の選択肢別割合（％） ※専攻科のみが対象

回答内容	今回	前回
1. そう思う	22.2	
2. どちらかといえばそう思う	44.4	
3. どちらともいえない	22.2	
4. どちらかといえばそう思わない	0.0	
5. そう思わない	11.1	
無回答	0.0	
合計	100	

本設問では、専攻科生の多くが自身の成長について肯定的に捉えており、歯科衛生士としての実務経験や高度な学修を通じて、医療従事者としての使命感や倫理観がより明確になっていることがうかがえる。

また、専攻科における教育・研究活動や臨床現場での経験が、他者と協働しながら責任ある役割を果たす意識、すなわちリーダーシップの涵養に寄与しているものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 28] 口腔保健の役割と重要性を理解し、科学的探究心と問題解決能力、生涯学習能力、自己決定能力を身につけている。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

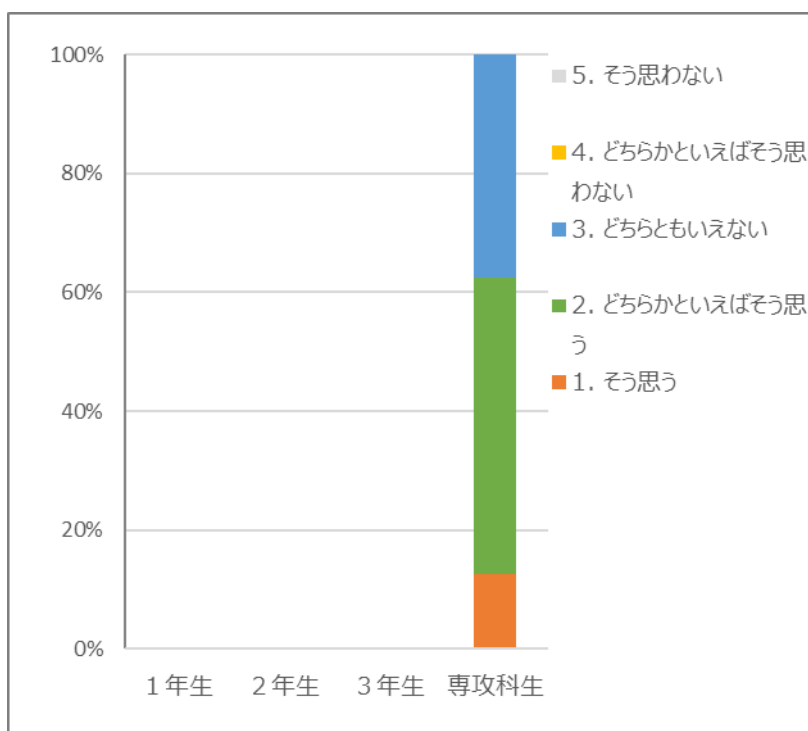
問 28 表 全学年の選択肢別割合 (%) ※専攻科のみが対象

回答内容	今回	前回
1. そう思う	11.1	
2. どちらかといえばそう思う	44.4	
3. どちらともいえない	33.3	
4. どちらかといえばそう思わない	0.0	
5. そう思わない	0.0	
無回答	11.1	
合計	100	

本設問においては、専攻科生が口腔保健の意義を踏まえた専門的学修を通じて、自ら課題を設定し、考察する力を一定程度身につけていると認識している様子が示された。

専攻科では、歯科衛生士養成課程を基礎として、より高度な学修や研究的視点を重視しており、こうした教育環境が、生涯にわたって学び続ける姿勢や自己決定能力の形成につながっているものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



[問 29] 口腔保健学を専門とする研究者、教育者、臨床家として必要な能力を修得し、発展向上させることができる。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

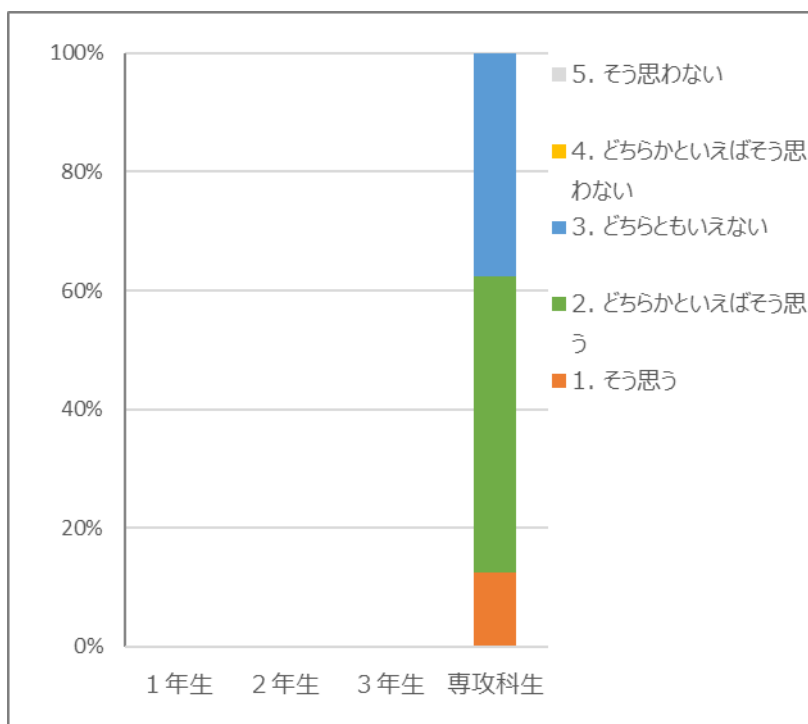
問 29 表 全学年の選択肢別割合 (%) ※専攻科のみが対象

回答内容		今回	前回
1.	そう思う	11.1	
2.	どちらかといえばそう思う	44.4	
3.	どちらともいえない	33.3	
4.	どちらかといえばそう思わない	0.0	
5.	そう思わない	0.0	
	無回答	11.1	
合計		100	

本設問の結果から、専攻科生は、専門職としての基盤的能力をさらに発展させる段階にあることを自覚しつつ、研究・教育・臨床の各側面における学びの重要性を認識していることがうかがえる。

専攻科における教育は、即時的な到達度よりも、専門性を継続的に高めていく力の育成を重視しており、学生の自己評価は、その成長過程を反映したものと考えられる。

ディプロマ・ポリシーの自己評価



7. 学外活動

[問 30] アルバイトの経験はありますか。

1. 経験がある
2. 経験がない

問 30 表 全学年の選択肢別割合 (%)

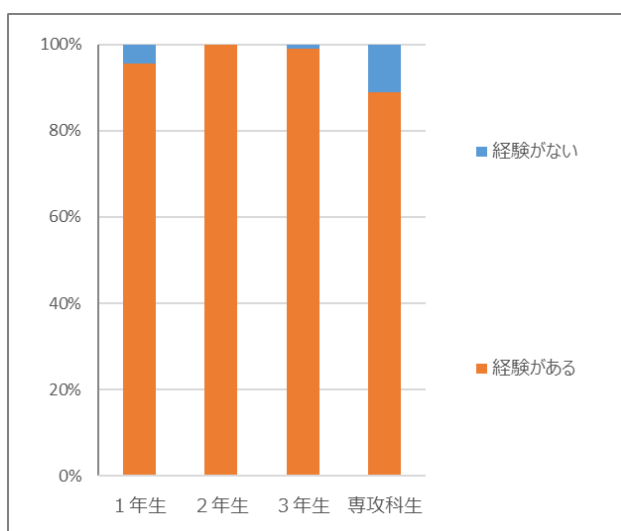
回答内容	今回	前回
1. 経験がある	98.0	97.3
2. 経験がない	2.0	2.7
合計	100	100

本設問は、学生の学外活動の状況を把握し、学生生活の実態を多面的に理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「アルバイトの経験がある」と回答した学生がほとんどを占めており、本学短期大学部の多くの学生が、学修と並行してアルバイトに取り組んでいる実態が示された。この傾向は前年度と比較しても大きな変化はなく、安定した状況にあるといえる。

アルバイト経験は、収入面にとどまらず、社会的マナーや対人対応力、責任感を身につける機会となる一方で、学修や生活リズムとの両立が重要である。本設問の結果は、学生の生活状況を把握するための基礎資料として、今後の学生支援やキャリア形成支援の検討に活用していく予定である。

アルバイト経験



[問 31]現在、アルバイトの1週間あたりの平均勤務時間を選択してください。

1. 5時間未満
2. 5時間以上10時間未満
3. 10時間以上20時間未満
4. 20時間以上30時間未満
5. 30時間以上
6. 現在アルバイトはしていない

問 31 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 5時間未満	9.2	7.5
2. 5時間以上10時間未満	30.2	31.4
3. 10時間以上20時間未満	40.0	44.0
4. 20時間以上30時間未満	11.9	9.9
5. 30時間以上	2.0	0.0
6. 現在アルバイトはしていない	4.7	4.4
無回答	2.0	2.7
合計	100	100

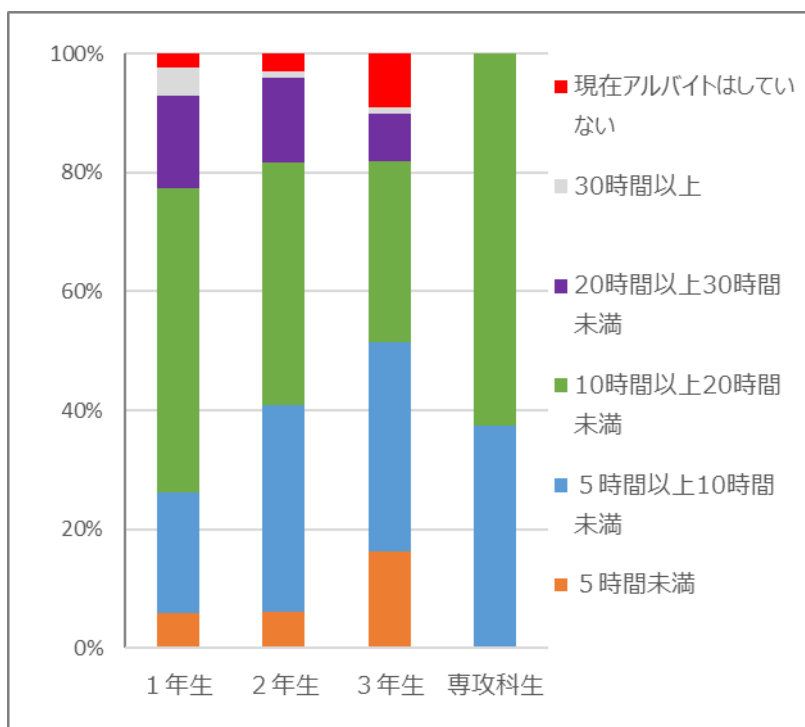
*無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

本設問は、アルバイトに従事している学生の勤務状況を把握し、学修や生活との関わりを理解することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「5時間以上10時間未満」および「10時間以上20時間未満」と回答した学生が多くを占めており、一定の範囲内でアルバイトに取り組んでいる学生が中心であることがうかがえる。一方で、「20時間以上」と回答した学生も一定数存在しており、学生によってアルバイトへの関わり方には幅が見られた。

アルバイトの勤務時間は、学修時間や生活リズムとの調整が求められる要素である。本設問の結果は、学生がそれぞれの状況に応じてアルバイトと学修を両立させている実態を示すものであり、今後も学生の生活状況を総合的に把握するための基礎資料として、学生支援およびキャリア形成支援の検討に活用していく予定である。

週あたりの平均アルバイト勤務時間



[問 32]月あたりの平均アルバイトの収入を選択してください。

1. 3万円未満
2. 3万円以上5万円未満
3. 5万円以上7万円未満
4. 7万円以上10万円未満
5. 10万円以上

問 32 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 3万円未満	14.9	9.2
2. 3万円以上5万円未満	25.8	30.0
3. 5万円以上7万円未満	25.4	27.3
4. 7万円以上10万円未満	27.5	24.6
5. 10万円以上	4.4	1.7
無回答	2.0	7.2
合計	100	100

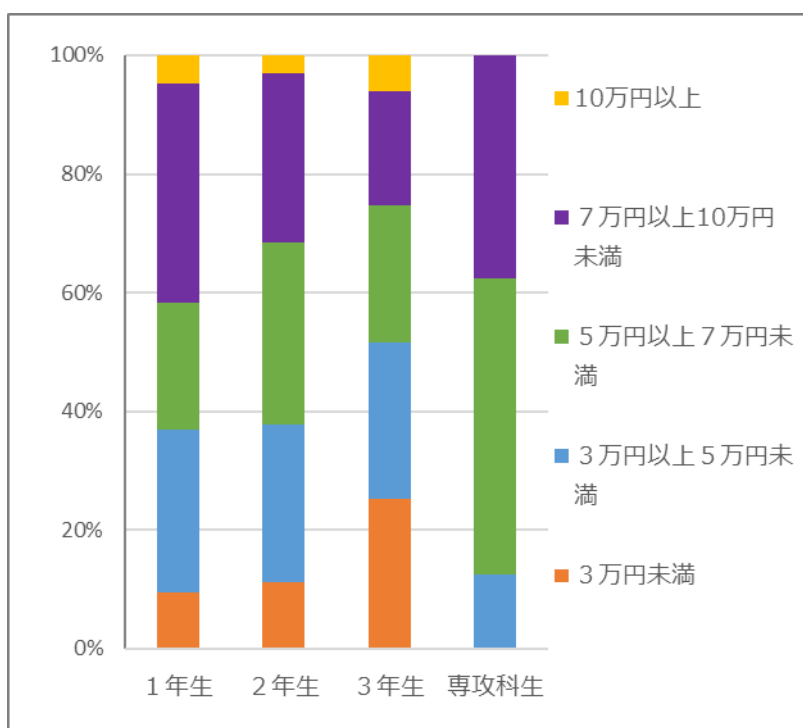
*無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

本設問は、アルバイトに従事している学生の収入状況を把握し、学生生活の実態を理解することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「3万円以上5万円未満」「5万円以上7万円未満」「7万円以上10万円未満」と回答した学生が多くを占めており、一定の収入を得ながら学生生活を送っている様子がうかがえる。また、「10万円以上」と回答した学生も一定数見られ、学生によってアルバイトへの関わり方や就労状況には幅があることが示された。

アルバイト収入は、生活費や学修関連費用の補填など、学生生活を支える一因となる一方で、学修とのバランスにも配慮が必要である。本設問の結果は、学生の生活状況を多面的に把握するための基礎資料として、今後の学生支援やキャリア形成支援を検討する際に活用していく予定である。

アルバイトの平均月収



[問 33]次の中からアルバイトの職種を選択してください。(複数回答可)

1. 歯科医院
2. 飲食・フード
3. 販売・接客・サービス
4. 教育
5. レジャー・エンタメ

6. 営業・事務
7. 物流・配送
8. IT・コンピューター
9. その他

問 33 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 歯科医院	15.5	16.3
2. 飲食関係	52.3	50.4
3. 販売・接客・サービス関係	23.7	21.2
4. 教育関係	1.8	2.6
5. レジャー・エンタメ・娯楽関係	2.1	3.4
6. 営業・事務関係	1.0	0.3
7. 物流・配送関係	0.3	0.0
8. IT・コンピューター関係	0.0	0.0
9. その他	1.5	0.5
無回答	1.8	5.4
合計	100	100

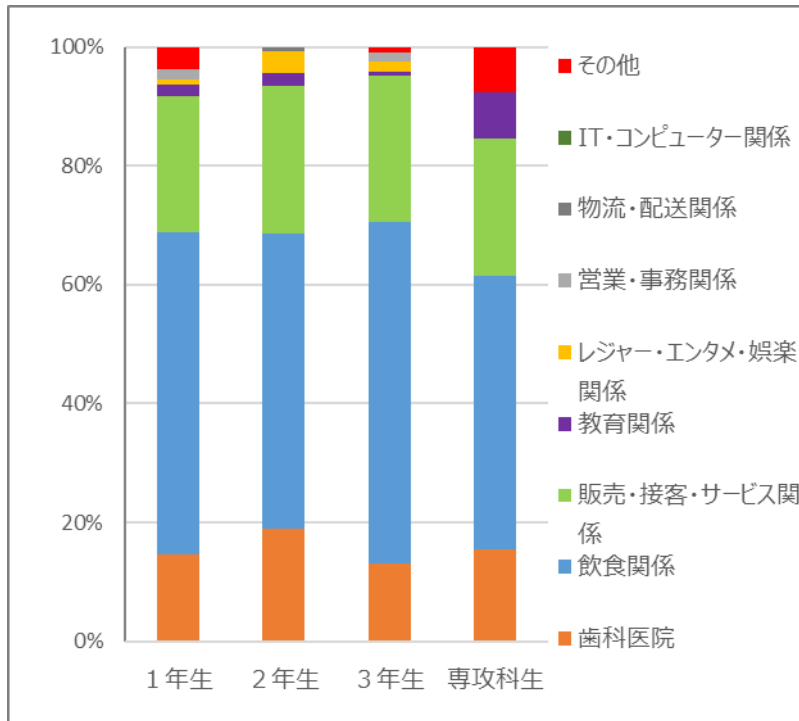
*無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

本設問は、学生が従事しているアルバイトの職種を把握し、学外活動の実態や学生の就労経験の特徴を理解することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「飲食・フード」関係のアルバイトに従事している学生が最も多く、次いで「歯科医院」でのアルバイトが多く見られた。このほか、「販売・接客・サービス」など、対人対応を伴う職種に従事している学生も一定数存在しており、学生がさまざまな形で社会との接点を持っている様子がうかがえる。

特に歯科医院におけるアルバイト経験は、学修内容と実務を結び付けて理解する機会となる場合もあり、学生にとって貴重な学外経験の一つであると考えられる。一方で、アルバイトの職種や勤務形態は学生ごとに多様であることから、本設問の結果は、学生の経験を一律に評価するものではなく、生活状況や学修状況を総合的に理解するための基礎資料として、今後のキャリア形成支援の検討に活用していく予定である。

アルバイトの職種



[問 34]次の中からアルバイト収入の用途を選択してください。(複数回答可)

1. 学費（授業料等）
2. 勉学費（教科書、書籍、文具等）
3. 通学交通費（定期代）、免許取得費、自動車・バイク等購入維持費
4. クラブ・サークル活動費
5. 生活費（食住費）
6. 趣味、被服、娯楽
7. 貯金
8. その他

問 34 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 学費（授業料等）	2.5	2.9
2. 勉学費（教科書、書籍、文具等）	5.2	4.1
3. 通学交通費（定期代）、免許取得費、自動車・バイク等購入維持費	8.7	7.0
4. クラブ・サークル活動費	2.5	2.1
5. 生活費（食住費）	11.6	11.6
6. 趣味、被服、娯楽費	45.3	43.4
7. 貯金	23.2	25.3
8. その他	0.0	0.0
無回答	1.0	3.6
合計	100	100

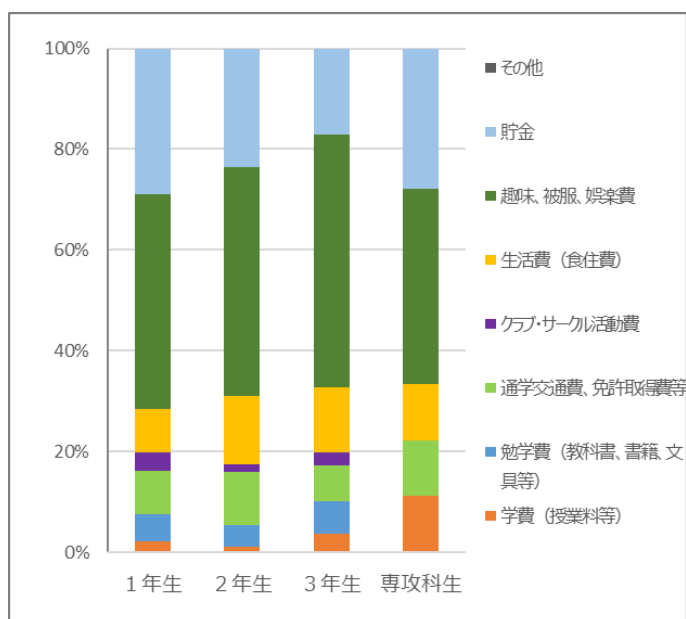
* 無回答はアルバイトの「経験がない」を選択した学生

本設問は、学生がアルバイトによって得た収入をどのような目的に使用しているかを把握し、学生生活の実態を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「趣味・被服・娯楽」や「貯金」への使用が多く見られ、次いで「生活費（食住費）」や「通学交通費等」に充てている学生が一定数存在していた。このことから、アルバイト収入が、学生の日常生活や余暇活動を支えるとともに、将来を見据えた資金管理にも活用されている様子がうかがえる。

アルバイト収入の用途は、学生一人ひとりの生活状況や価値観によって異なるものであり、特定の目的に限定されるものではない。本設問の結果は、学生の生活実態を多面的に把握するための基礎資料として、今後の学生支援やキャリア形成支援を検討する際に活用していく予定である。

アルバイト収入の使途



[問 35]次の中から授業終了後の行動について選択してください。(複数回答可)

1. まっすぐ家に帰る
2. 友人と遊ぶ
3. 学内で勉強する
4. クラブ・サークル活動をする
5. 教室、学食、マグネットラウンジ等で過ごす
6. アルバイトに行く
7. 学外の各種学校に行く (資格取得等)
8. その他

問 35 表 全学年の選択肢別割合 (%)

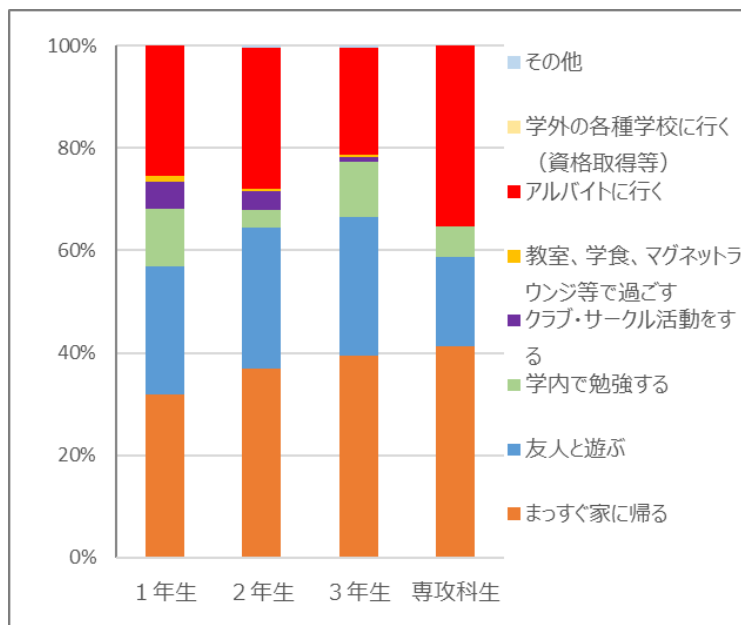
回答内容	今回	前回
1. まっすぐ家に帰る	36.1	35.1
2. 友人と遊ぶ	26.3	25.1
3. 学内で勉強する	8.4	7.6
4. クラブ・サークル活動をする	3.3	2.7
5. 教室、学食、マグネットラウンジ等で過ごす	0.7	0.8
6. アルバイトに行く	25.0	27.4
7. 学外の各種学校に行く (資格取得等)	0.0	0.5
8. その他	0.3	0.7
合計	100	100

本設問は、授業終了後に学生がどのような行動をとっているかを把握し、学生生活の実態を多面的に理解することを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「まっすぐ家に帰る」と回答した学生が最も多く、次いで「友人と過ごす」「アルバイトに行く」が多く見られたことから、授業終了後は家庭生活や人間関係、就労といった活動に時間を充てている学生が多いことがうかがえる。一方で、「学内で勉強する」や「クラブ・サークル活動を行う」と回答した学生も一定数存在しており、授業後の過ごし方には学生ごとの多様性が見られた。

授業終了後の行動は、学修状況や生活リズム、学外活動の在り方とも関係する要素である。本設問の結果は、学生一人ひとりの生活実態を踏まえた学生支援や学修環境の検討を行うための基礎資料として、今後も活用していく予定である。

授業終了後の行動



5. 進路・満足度

[問 36]卒業後の進路について選択してください。

1. 歯科衛生士として就職
2. 歯科衛生士以外の職業に就職
3. 進学
4. 海外留学する
5. まだわからない
6. その他

問 36 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 歯科衛生士として就職	84.7	85.7
2. 歯科衛生士以外の職業に就職	0.7	0.0
3. 進学	3.7	3.8
4. 海外留学	0.0	0.3
5. まだわからない	10.8	10.2
6. その他	0.0	0.0
合計	100	100

本設問は、学生が卒業後に希望している進路について把握し、キャリア形成支援の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

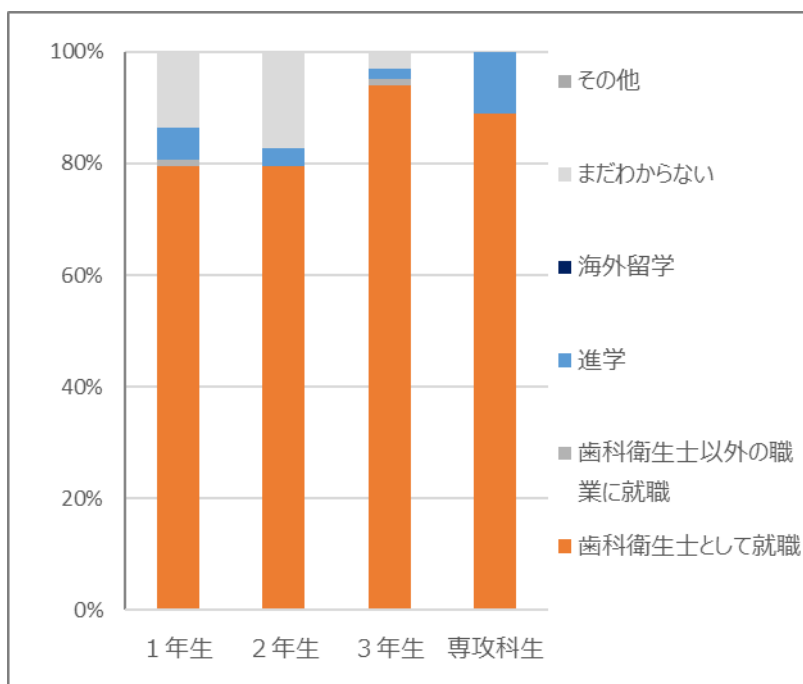
2025年度の結果では、「歯科衛生士として就職する」と回答した学生が大多数を占めており、本学短期大学部で学んだ専門性を生かし、医療現場での就業を目指している学生が多いことが示された。一方で、「進学」や「まだわからない」と回答した学生も一定数存在しており、学生によって卒業後の進路選択は多様であることがうかがえる。

学年別に見ると、1・2年生では「まだわからない」と回答した学生が一定数存在しているのに対し、3年生では「歯科衛生士として就職する」と回答した学生が大多数を占めており、学年進行に伴って進路意識が明確化していることが示された。専攻科生においては、進路選択がほぼ確定している状況がうかがえる。

本設問の結果は、学生のキャリア形成が在学中に段階的に進んでいること、また3年次における進路支援の重要性と有効性を示すものとして、今後のキャリアサポートの検討に活用していく。

卒業後の進路は、学修状況や実習経験、個々の価値観などによって形成されるものである。本設問の結果は、学生一人ひとりの将来像を踏まえたキャリア支援を行うための重要な資料として位置づけ、今後も就職支援や進学支援の充実に活用していく予定である。

卒業後の進路



[問 37] 学生生活の充実度について選択してください。

1. 充実している
2. 充実していない
3. どちらも言えない

問 37 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 充実している	78.0	80.2
2. 充実していない	3.4	1.0
3. どちらも言えない	18.6	18.8
合計	100	100

本設問は、学生が自身の学生生活全体をどのように評価しているかを把握し、本学短期大学部における教育・学生支援の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「充実している」と回答した学生が大多数を占めており、多くの学生が学修や実習、学生生活を通じて一定の満足感を得ている様子がうかがえる。一方で、「どちらとも言えない」と回答した学生も一定数存在しており、学生生活の受け止め

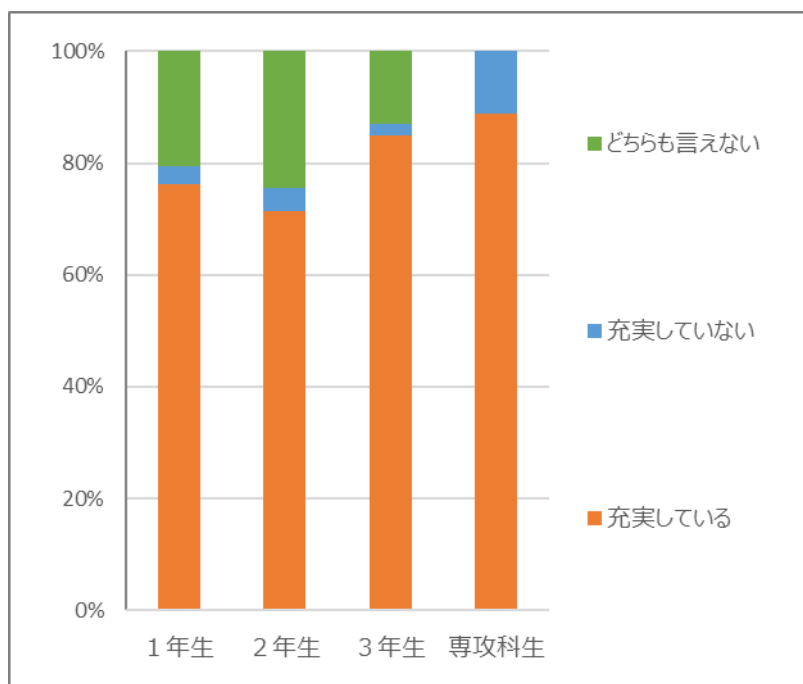
方には個人差があることが示された。「充実していない」と回答した学生は少数にとどまっている。

学年別に見ると、「充実している」と回答した割合は3年生で最も高く、1・2年生では「どちらともいえない」と回答した学生が相対的に多い傾向が見られた。

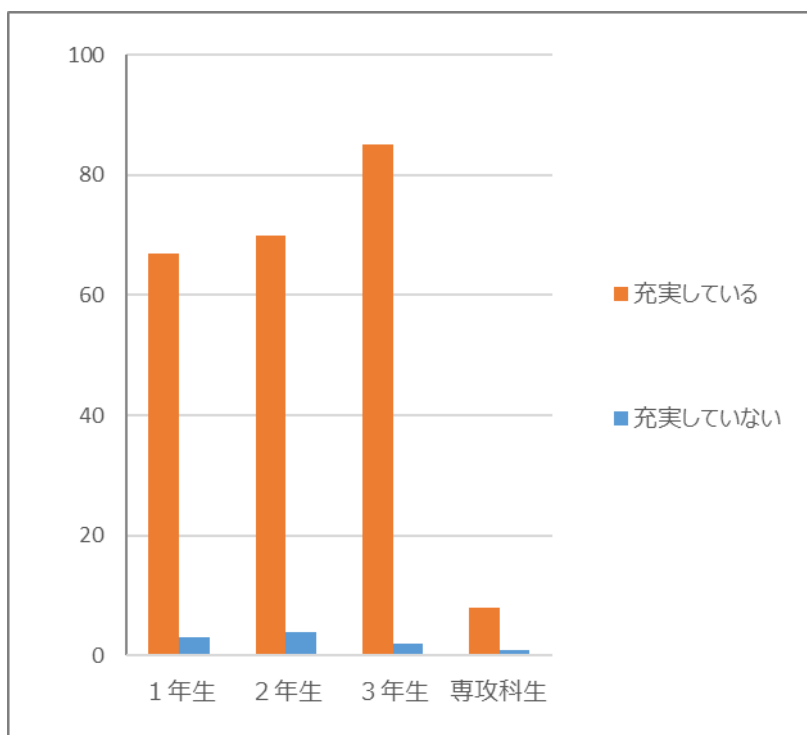
これは、専門科目や実習を通じて歯科衛生士としての役割や学びの意義を実感できる段階になることで、学生生活への充実感が高まっているものと考えられる。本設問の結果は、専門職アイデンティティの形成と学生生活の満足感との関連を示唆するものとして捉えられる。

学生生活の充実度は、学修内容のみならず、生活環境や人間関係、課外活動など多様な要素が関係するものである。本設問の結果は、学生の全体的な満足度を把握するための重要な指標として位置づけ、今後も教育内容や学生支援の継続的な点検・改善に活用していく予定である。

学生生活の充実度



充実度の比較 (%)



[問 38] 学科の内容全体に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 38 表 全学年の選択肢別割合 (%)

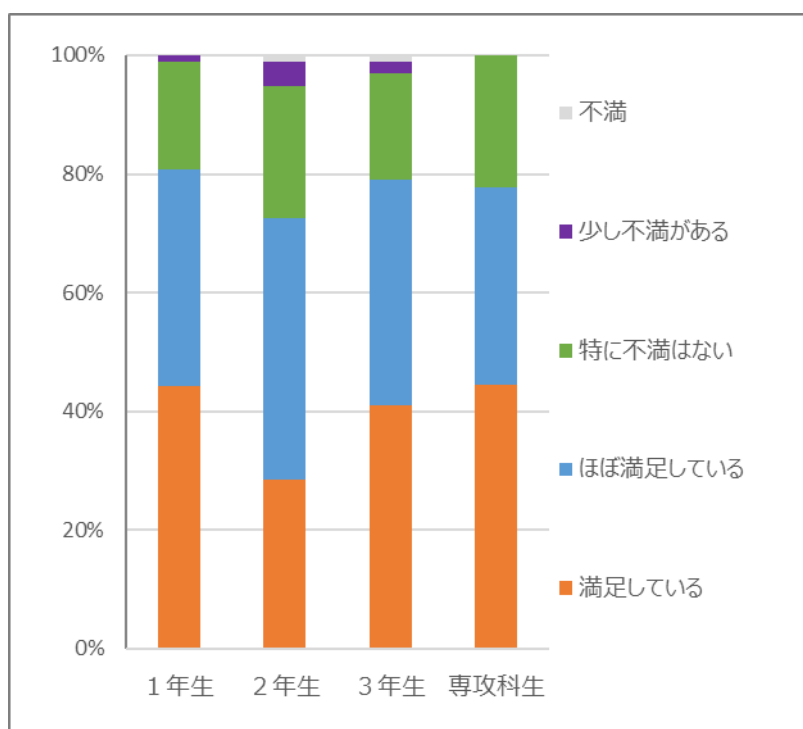
回答内容	今回	前回
1. 満足している	38.0	37.2
2. ほぼ満足している	39.3	34.5
3. 特に不満はない	19.7	22.9
4. 少し不満がある	2.4	5.1
5. 不満	0.7	0.3
合計	100	100

本設問は、学科で提供されている教育内容全体について、学生がどの程度満足しているかを把握し、教育の質の向上に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

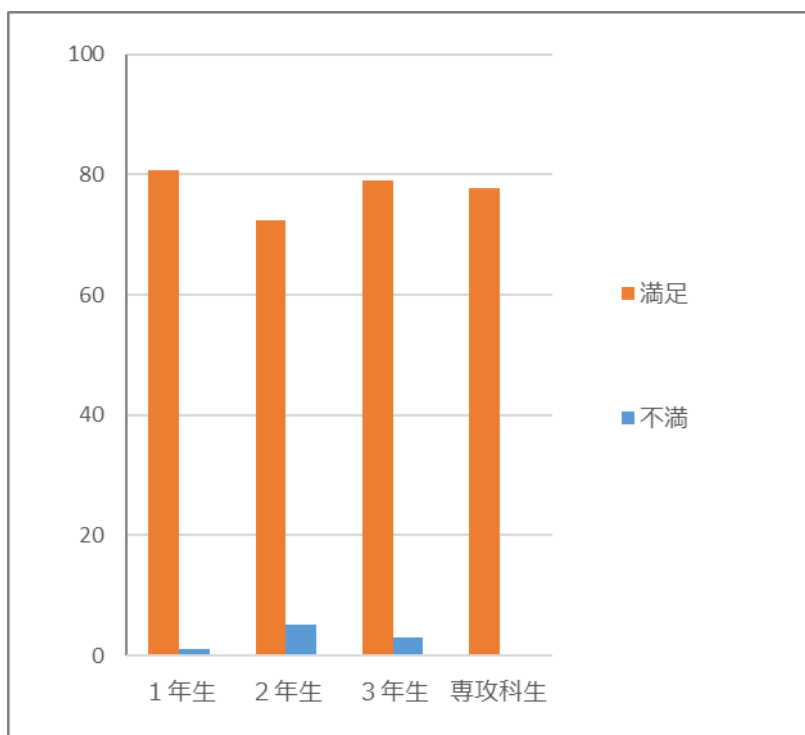
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が大多数を占めており、学科の教育内容全体について、概ね高い評価が得られていることがうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生によって受け止め方には幅があることが示された。「少し不満がある」「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

学科の内容に対する満足度は、講義・実習の構成や学修負担、学生自身の学修目標など、複数の要素が関係するものである。本設問の結果は、現在の教育内容が学生に一定程度支持されていることを示すものであると同時に、今後も継続的な点検と改善を行っていくための重要な基礎資料として活用していく予定である。

学科の内容全体の満足度



満足度の比較 (%)



[問 39]開講されている科目の種類や内容に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 39 表 全学年の選択肢別割合 (%)

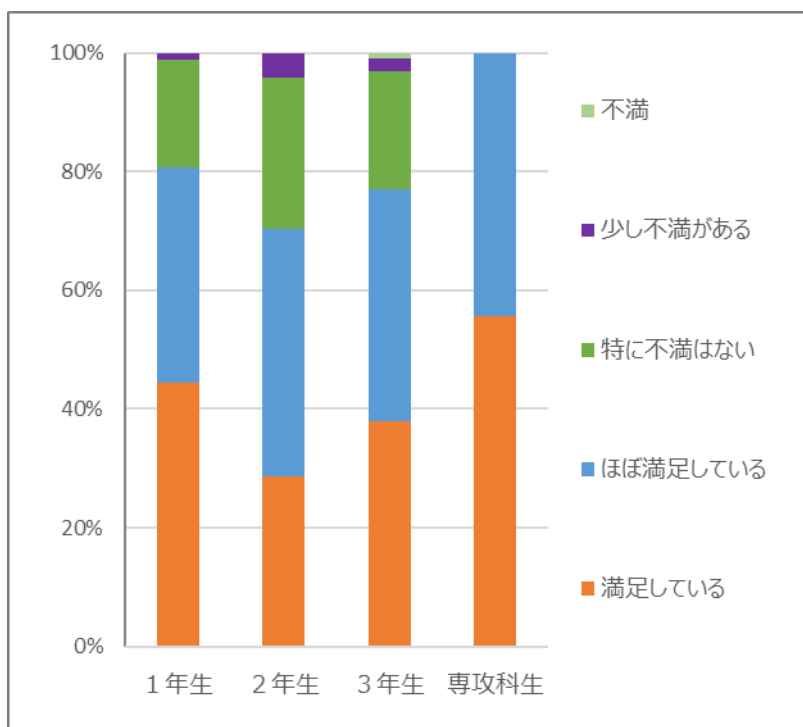
回答内容	今回	前回
1. 満足している	37.3	34.8
2. ほぼ満足している	39.3	34.8
3. 特に不満はない	20.7	25.9
4. 少し不満がある	2.4	3.4
5. 不満	0.3	1.0
合計	100	100

本設問は、開講されている科目の種類や内容について、学生がどの程度満足しているかを把握し、教育内容の充実に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

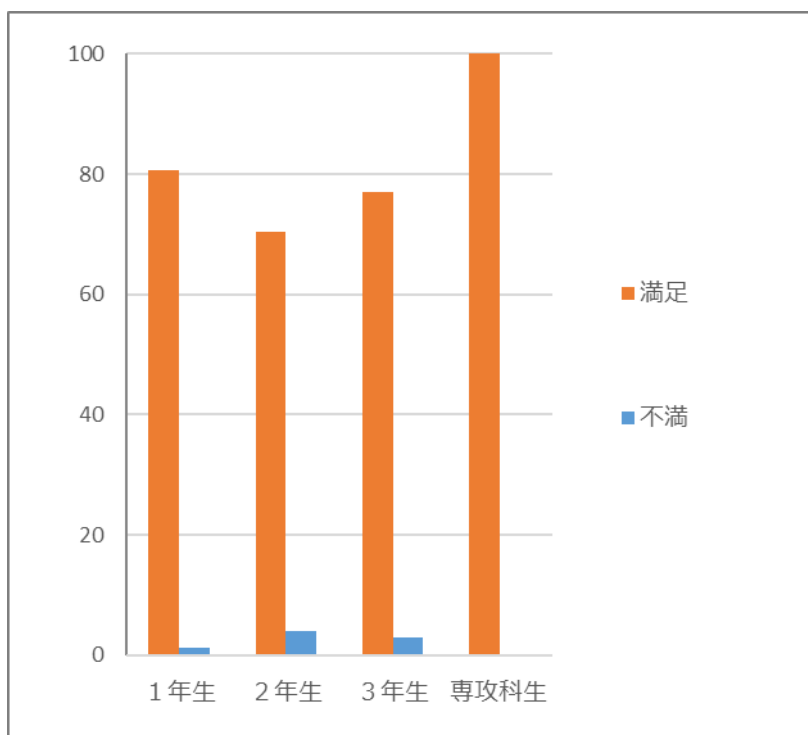
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が大多数を占めており、提供されている科目の構成や内容について、概ね高い評価が得られていることがうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生の受け止め方には幅があることが示された。「少し不満がある」「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

開講科目の種類や内容に対する満足度は、学生の学修段階や関心、将来の進路意識などによっても左右される。本設問の結果は、現行の科目編成が多くの学生に支持されていることを示す一方で、今後も学生のニーズを踏まえた科目内容の点検と改善を継続していくための基礎資料として活用していく予定である。

科目の種類・内容についての満足度



満足度の比較 (%)



[問 40]時間割編成に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 40 表 全学年選択肢別割合(%)

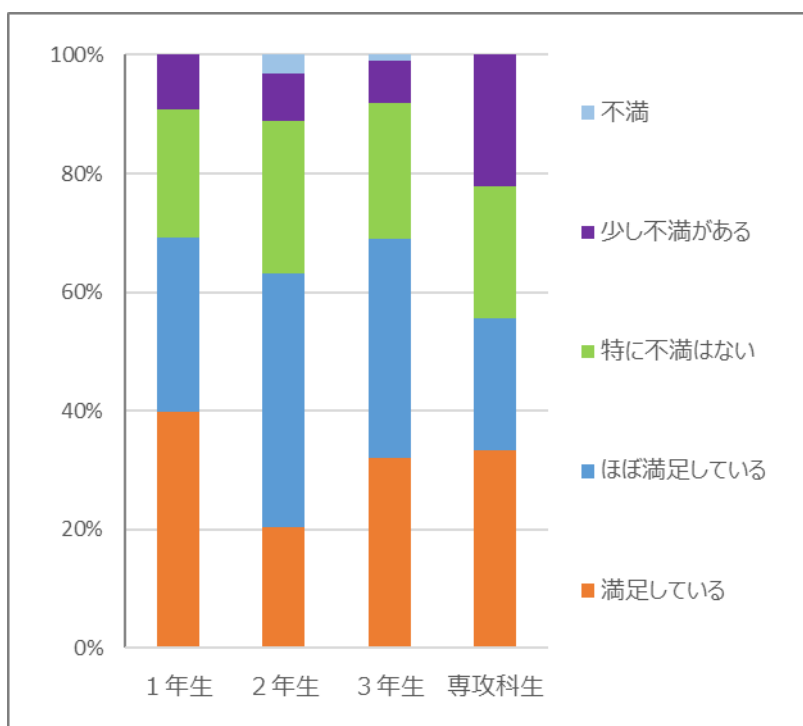
回答内容	今回	前回
1. 満足している	30.5	27.6
2. ほぼ満足している	36.3	28.3
3. 特に不満はない	23.4	29.0
4. 少し不満がある	8.5	12.6
5. 不満	1.4	2.4
合計	100	100

本設問は、時間割の構成について、学生がどの程度満足しているかを把握し、学修環境の改善に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

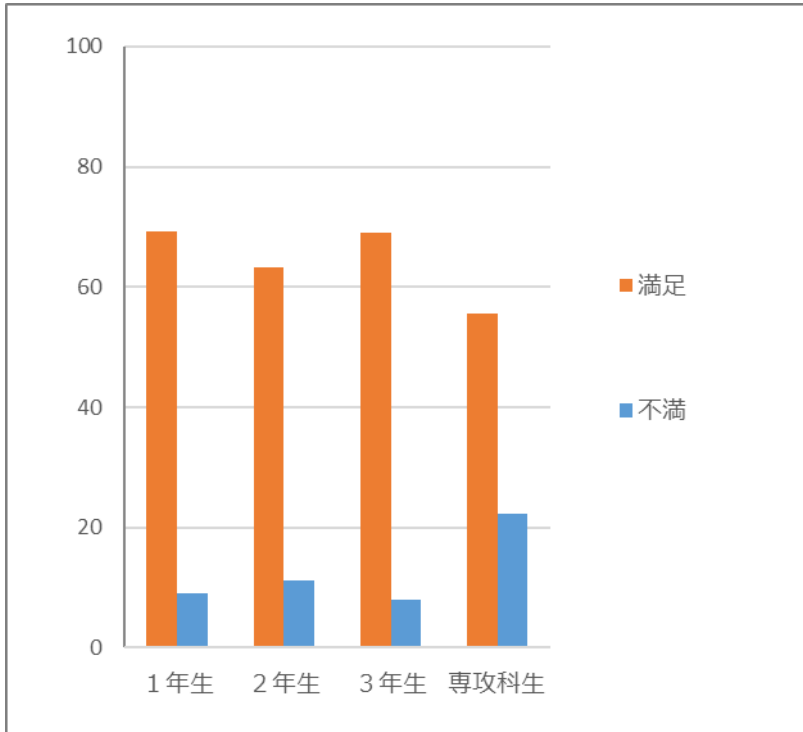
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が過半数を占めており、時間割編成について概ね肯定的に受け止められている様子が見える。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生の受け止め方には幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

時間割編成に対する満足度は、学年や履修科目、実習の有無などによっても影響を受けるものである。本設問の結果は、現在の時間割が多くくの学生に一定程度受け入れられていることを示すとともに、今後も学生の学修状況や負担感に配慮しながら、必要に応じて検討を継続していくための基礎資料として活用していく予定である。

時間割編成についての満足度



満足度の比較 (%)



[問 41]講義・実習の内容や方法に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 41 表 全学年の選択肢別割合 (%)

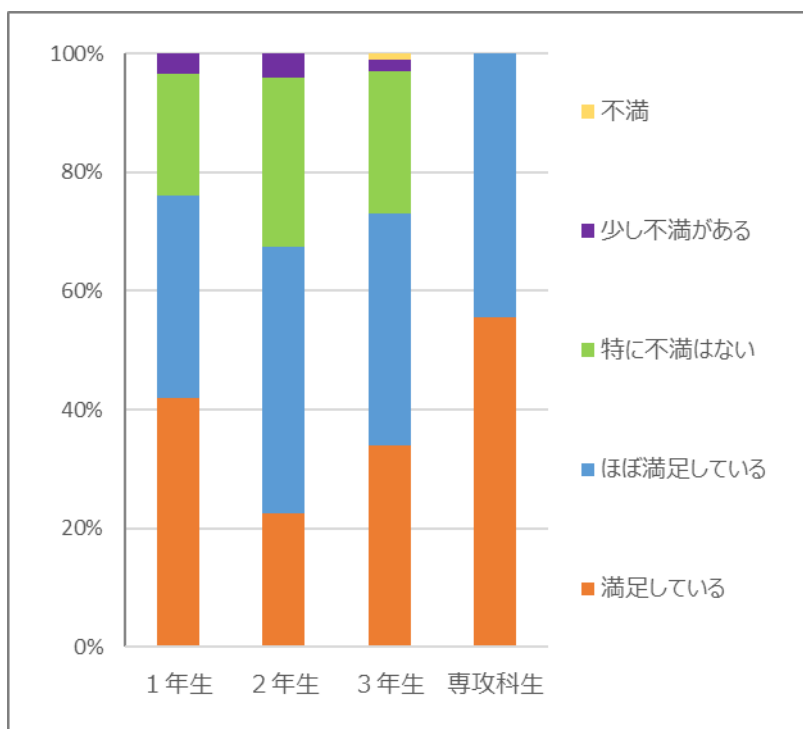
回答内容	今回	前回
1. 満足している	33.2	32.4
2. ほぼ満足している	39.7	32.1
3. 特に不満はない	23.7	29.0
4. 少し不満がある	3.1	5.8
5. 不満	0.3	0.7
合計	100	100

本設問は、講義および実習の内容や実施方法について、学生がどの程度満足しているかを把握し、教育の質の向上に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

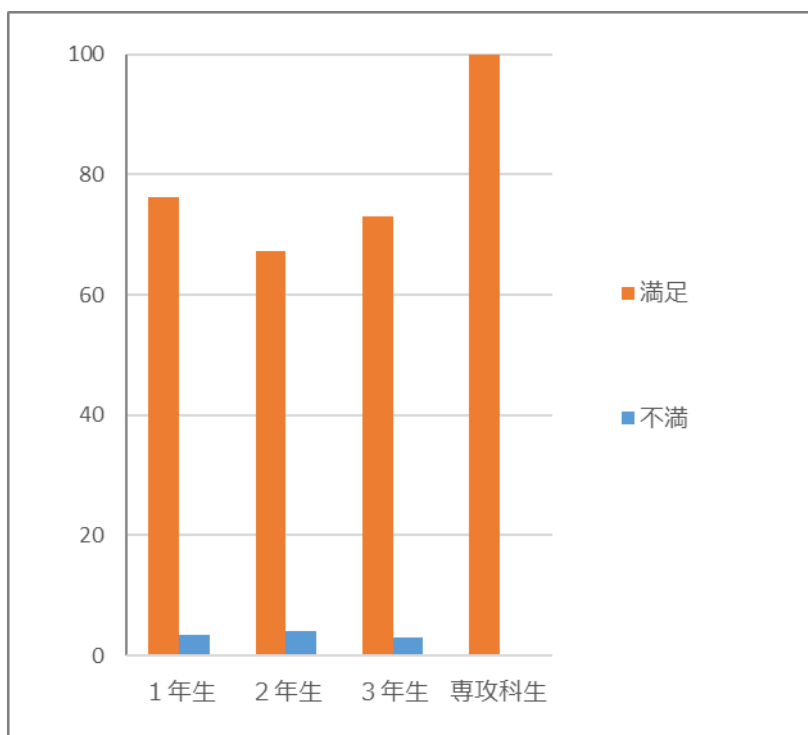
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が大多数を占めており、講義・実習の進め方や内容について、概ね肯定的に受け止められている様子がうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生の感じ方には幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

講義・実習に対する満足度は、学修段階や実習経験の有無、個々の学修目標などによっても左右されるものである。本設問の結果は、現行の教育方法が多くの学生に支持されていることを示すとともに、今後も学生の理解度や学修効果を踏まえながら、講義・実習内容の継続的な点検と改善を行っていくための基礎資料として活用していく予定である。

講義についての満足度



満足度の比較 (%)



[問 42]教育施設・設備（教室・実習室・図書館情報センター等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 42 表 全学年の選択肢別割合 (%)

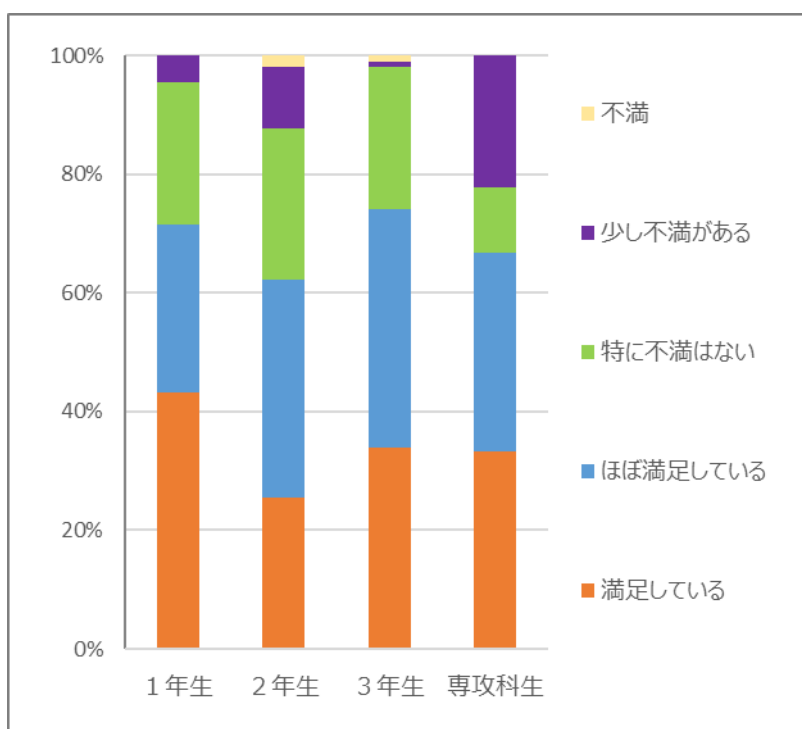
回答内容	今回	前回
1. 満足している	33.9	34.5
2. ほぼ満足している	35.3	29.0
3. 特に不満はない	24.1	31.7
4. 少し不満がある	5.8	3.4
5. 不満	1.0	1.4
合計	100	100

本設問は、教室・実習室・図書館情報センター等の教育施設・設備について、学生がどの程度満足しているかを把握し、学修環境の整備状況を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

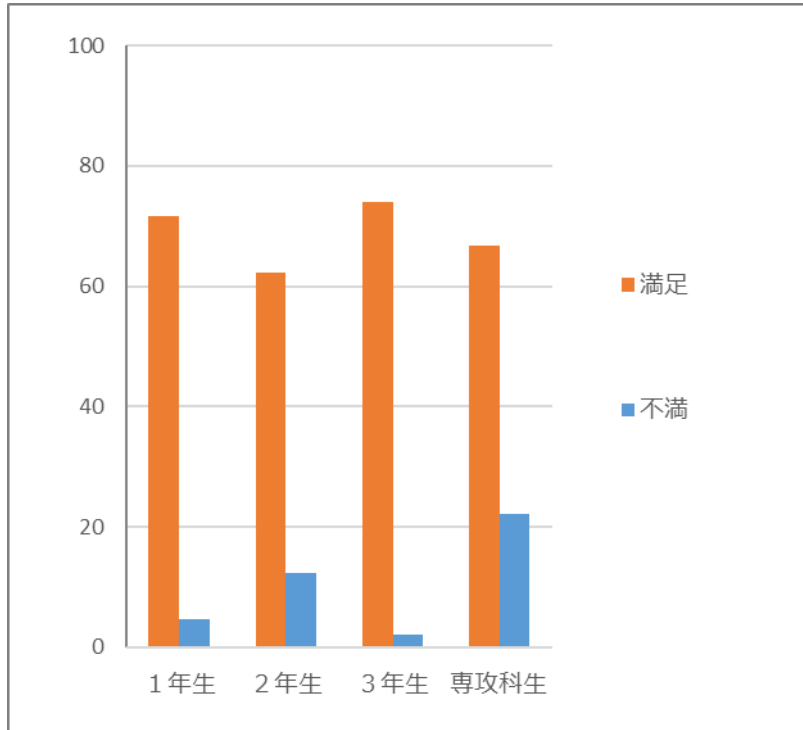
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が多数を占めており、教育施設・設備について概ね肯定的に評価されている様子がうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生の受け止め方には幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

教育施設・設備は、講義や実習の実施、学修の継続に欠かせない基盤であり、学生の学修効果や満足度にも影響を及ぼす要素である。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、現行の施設・設備の維持とともに、学生の学修ニーズに応じた環境整備について、今後も継続的に点検・検討を行っていく予定である。

教育施設・設備に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 43]課外活動施設（グラウンド、体育館等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 43 表 全学年の選択肢別割合 (%)

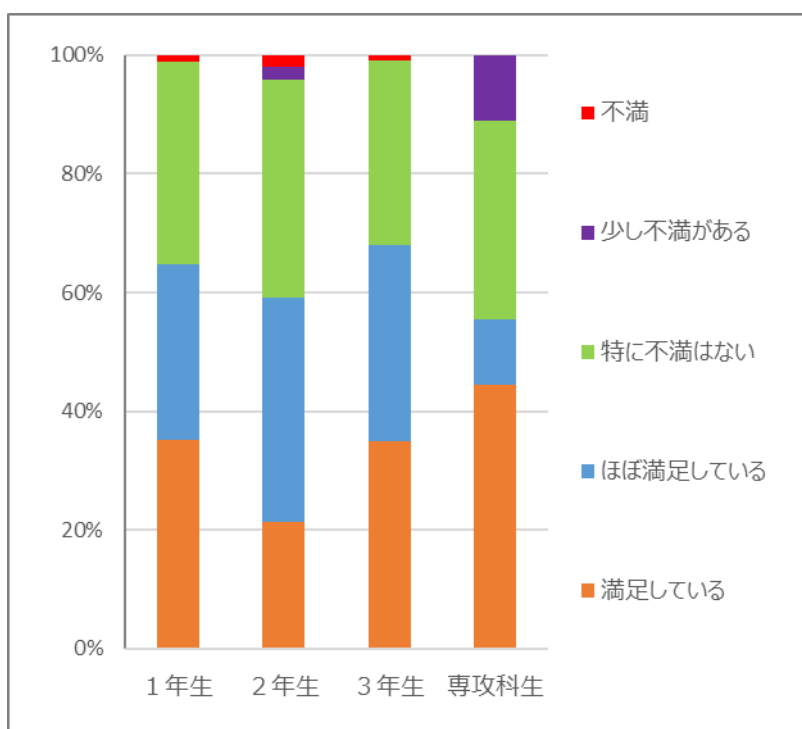
回答内容	今回	前回
1. 満足している	30.8	29.4
2. ほぼ満足している	32.9	22.2
3. 特に不満はない	33.9	44.0
4. 少し不満がある	1.0	2.7
5. 不満	1.4	1.7
合計	100	100

本設問は、課外活動に関連する施設（グラウンド、体育館等）について、学生がどの程度満足しているかを把握し、学生生活を支える環境整備の状況を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

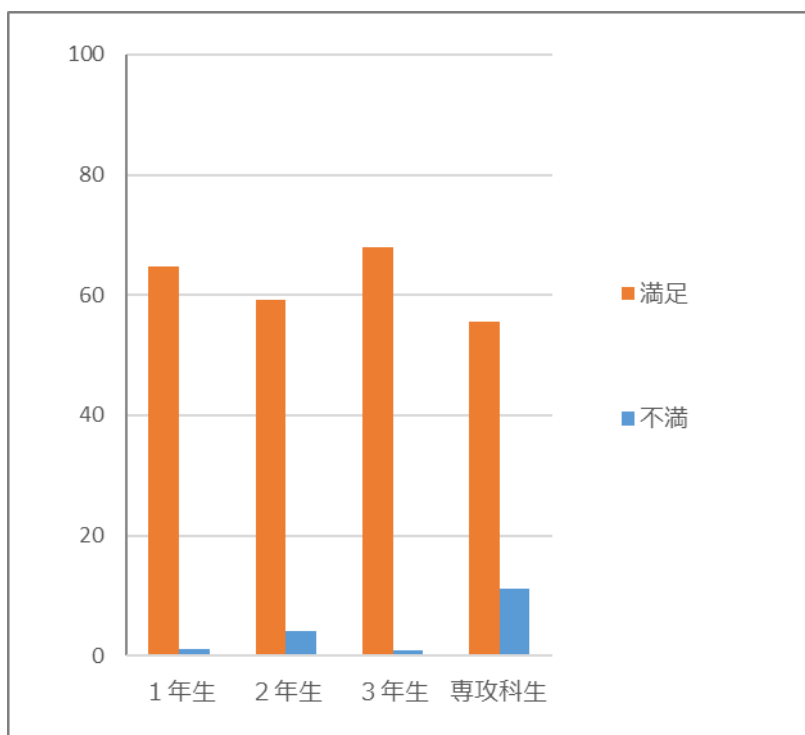
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が一定数を占めており、課外活動施設について概ね受け入れられていることがうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も比較的多く見られ、利用頻度や関わり方の違いによって、学生の受け止め方に幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

課外活動施設の利用状況は、クラブ・サークル活動への参加の有無や、学生個々の生活スタイルによって大きく異なる。本設問の結果は、施設の利用実態や学生のニーズを把握するための参考資料として位置づけ、今後も学生生活の多様性に配慮した環境整備や情報提供の在り方を検討する際に活用していく予定である。

課外活動施設に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 44]学内福利厚生施設（歯学部附属病院受診、保健室、食堂、売店等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 44 表 全学年の選択肢別割合 (%)

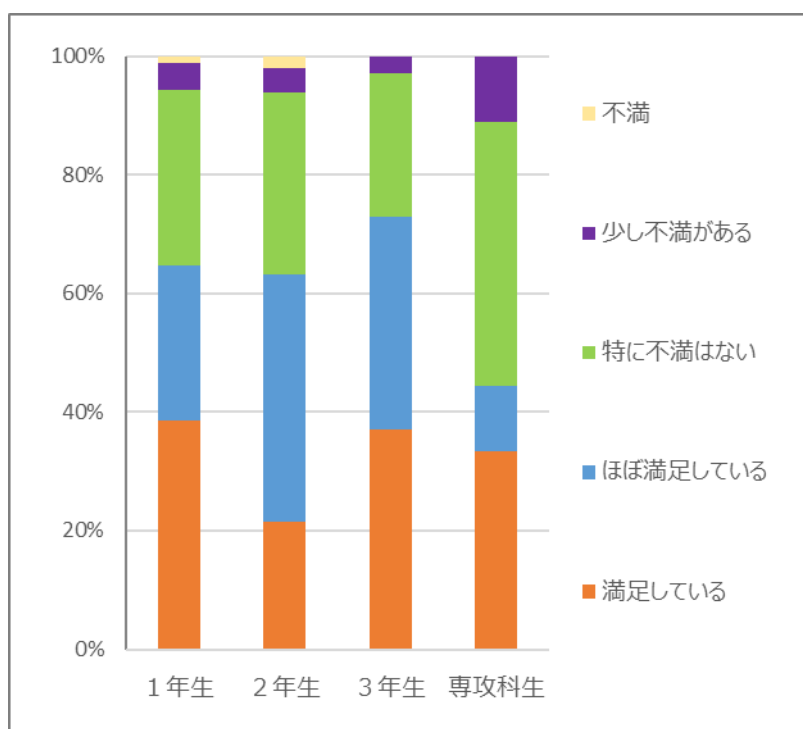
回答内容	今回	前回
1. 満足している	32.2	29.0
2. ほぼ満足している	34.2	24.2
3. 特に不満はない	28.5	37.9
4. 少し不満がある	4.1	6.8
5. 不満	1.0	2.0
合計	100	100

本設問は、学内の福利厚生施設（歯学部附属病院の利用、保健室、食堂、売店等）について、学生がどの程度満足しているかを把握し、学生生活を支える環境の充実度を確認することを目的として実施したものである。

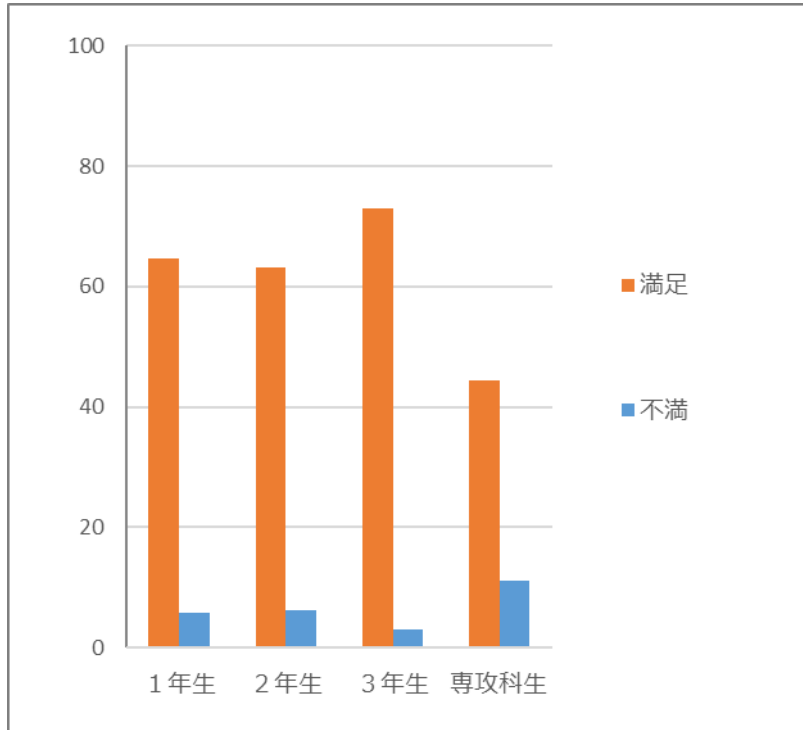
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が多く、学内福利厚生施設について概ね肯定的に受け止められている様子がうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、利用頻度や利用場面の違いによって、学生の受け止め方に幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

学内福利厚生施設は、学生の健康管理や日常生活を支える重要な基盤であり、学生生活の安心感にも関わる要素である。本設問の結果を踏まえ、今後も学生が安心して学生生活を送ることができるよう、福利厚生施設の役割や利用状況を点検し、必要に応じた環境整備や情報提供の在り方について検討を進めていく予定である。

学内福利厚生施設に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 45]文化活動（楠元祭、公開講演会等）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 45 表 全学年の選択肢別割合 (%)

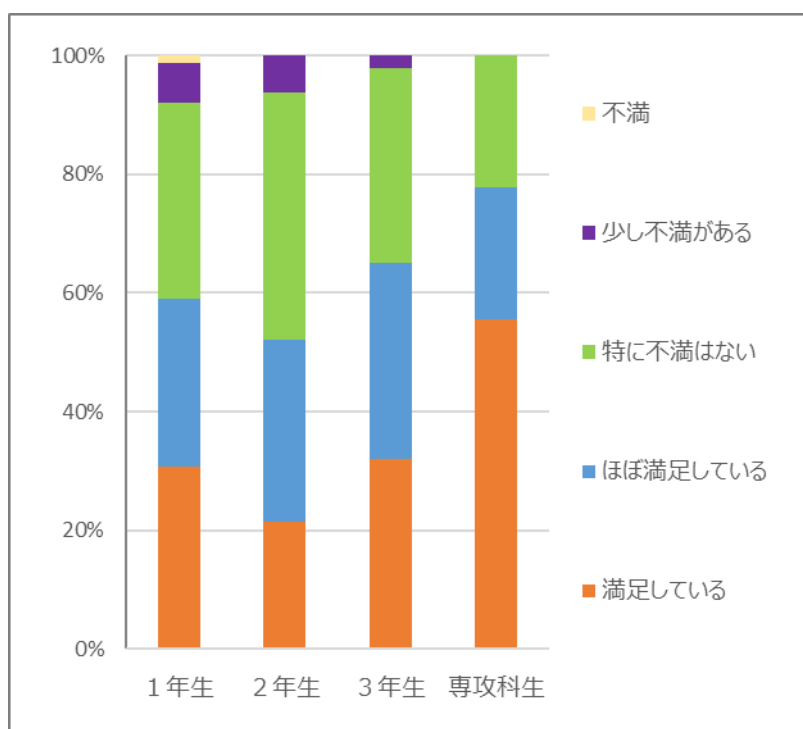
回答内容	今回	前回
1. 満足している	28.8	26.3
2. ほぼ満足している	30.5	23.9
3. 特に不満はない	35.6	41.0
4. 少し不満がある	4.7	6.5
5. 不満	0.3	2.4
合計	100	100

本設問は、楠元祭や公開講演会などの文化活動について、学生がどの程度満足しているかを把握し、学生生活を豊かにする取り組みの在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

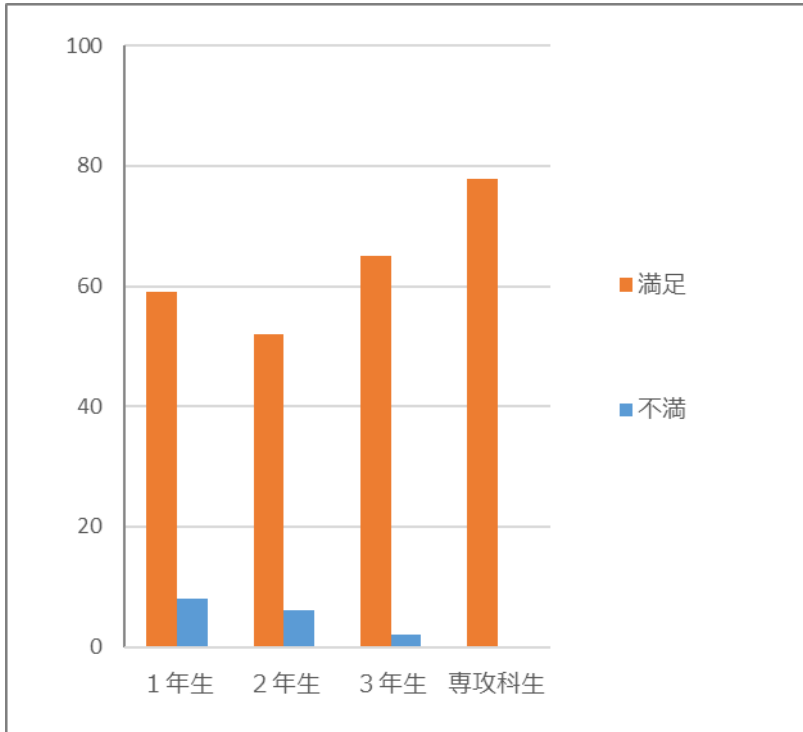
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が一定数存在しており、文化活動について概ね受け入れられている様子がうかがえる。一方で、「特に不満はない」と回答した学生も多く、文化活動への関心や参加状況、受け止め方には学生ごとに幅があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

文化活動は、学修や実習とは異なる形で学生同士や地域社会との交流を促す機会となる一方、参加の有無や感じ方は学生の関心や生活状況によって左右される。本設問の結果を踏まえ、今後も学生の多様なニーズや意見に配慮しながら、文化活動の在り方や情報提供の方法について検討を進めていく予定である。

文化活動に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 46]就職対策（キャリア対策）に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 46 表 全学年の選択肢別割合 (%) ※3年生と専攻科のみが対象

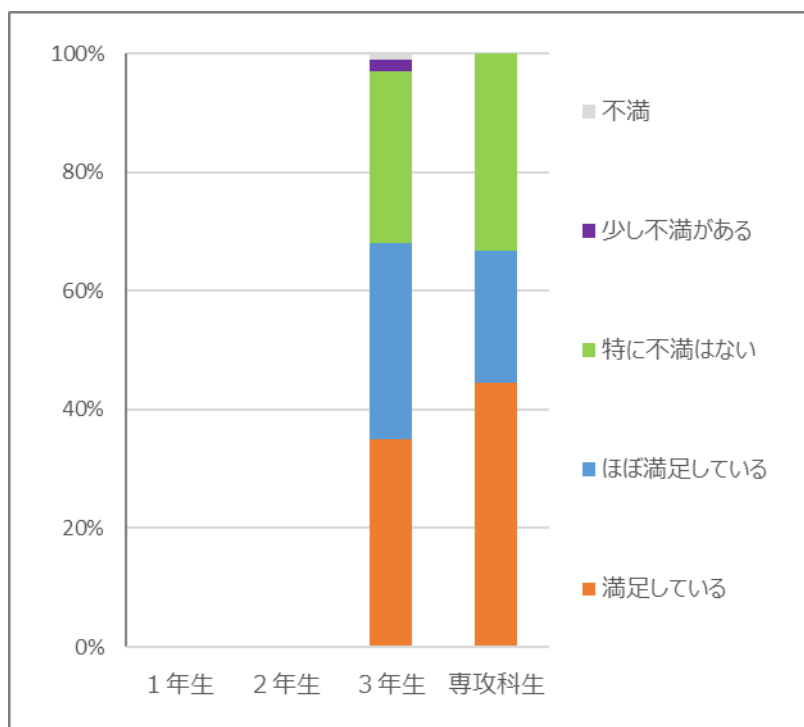
回答内容	今回	前回
1. 満足している	35.8	38.8
2. ほぼ満足している	32.1	19.4
3. 特に不満はない	29.4	41.8
4. 少し不満がある	1.8	0.0
5. 不満	0.9	0.0
合計	100	100

本設問は、本学短期大学部における就職対策（キャリア対策）について、学生がどの程度満足しているかを把握し、キャリア形成支援の充実に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

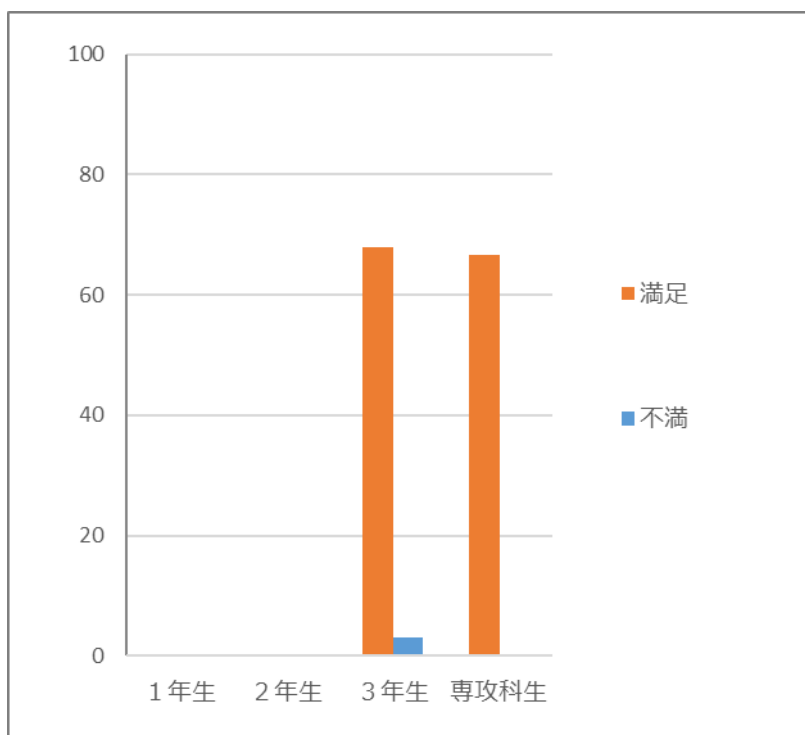
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が多数を占めており、就職対策に関する取り組みについて概ね肯定的に受け止められている様子がうかがえる。一方で、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、学生の受け止め方には個人差があることが示された。「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

就職対策への満足度は、学生自身の進路意識や就職活動の進捗状況、個別の支援経験などによっても左右されるものである。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、従来のキャリア支援の取り組みを継続的に点検するとともに、学生一人ひとりの状況に応じた支援の充実を図るための参考資料として、今後も活用していく予定である。

就職対策に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 47]奨学金制度に関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 47 表 全学年の選択肢別割合 (%)

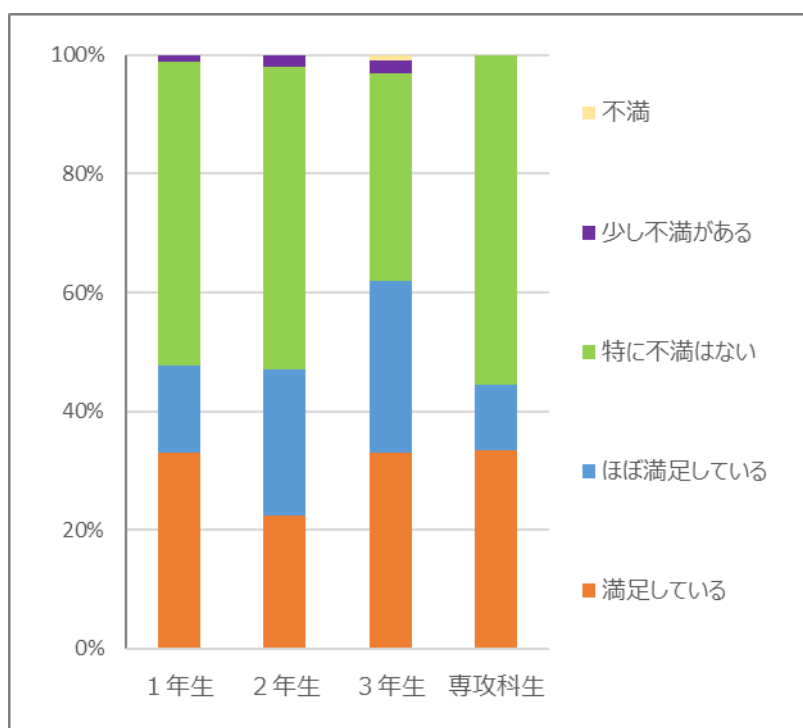
回答内容	今回	前回
1. 満足している	29.5	29.7
2. ほぼ満足している	22.7	18.1
3. 特に不満はない	45.8	49.1
4. 少し不満がある	1.7	2.4
5. 不満	0.3	0.7
合計	100	100

本設問は、奨学金制度について、学生がどの程度満足しているかを把握し、経済的支援体制の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

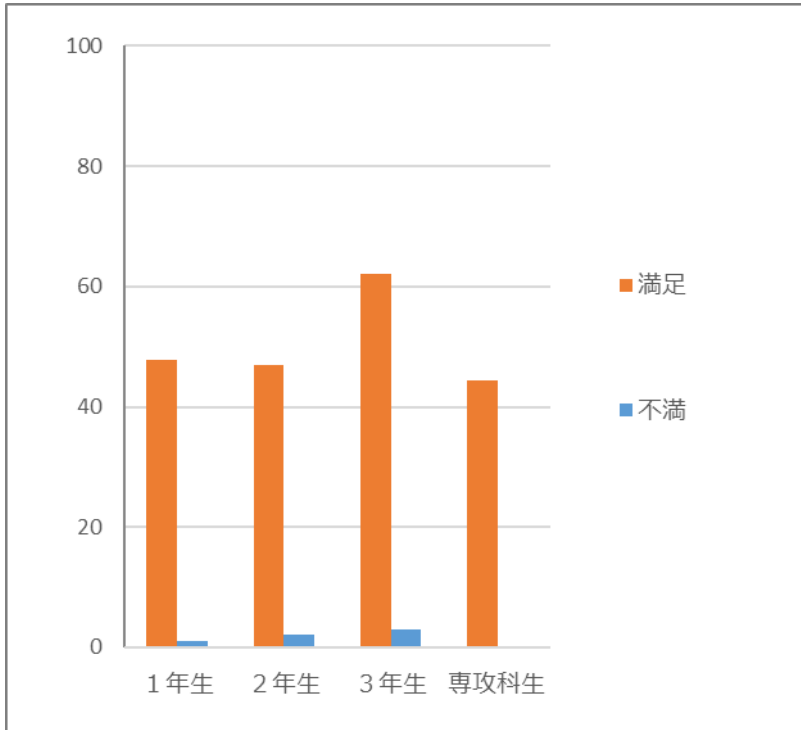
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が一定数見られるとともに、「特に不満はない」とする回答が多く、奨学金制度について概ね受け入れられている様子がうかがえる。一方で、「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっており、全体として大きな不満は示されていない。

奨学金制度に対する満足度は、制度内容そのものだけでなく、利用状況や学生個々の経済状況によっても異なる。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、奨学金制度に関する情報提供や相談対応の在り方について今後も点検を行い、学生が安心して修学を継続できる支援環境の充実に活用していく予定である。

奨学金に対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 48]短期大学部事務室の窓口対応・サービスに関する満足度について選択してください。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. 特に不満はない
4. 少し不満がある
5. 不満だ

問 48 表 全学年の選択肢別割合 (%)

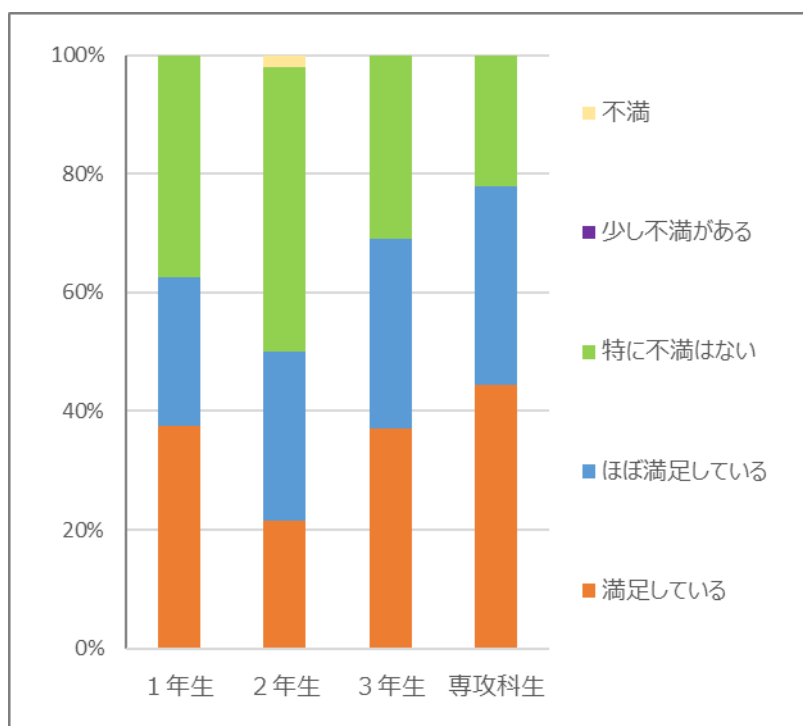
回答内容	今回	前回
1. 満足している	32.2	33.8
2. ほぼ満足している	28.8	20.8
3. 特に不満はない	38.3	43.3
4. 少し不満がある	0.0	1.0
5. 不満	0.7	1.0
合計	100	100

本設問は、短期大学部事務室における窓口対応や各種サービスについて、学生がどの程度満足しているかを把握し、学生支援体制の充実に向けた検討資料とすることを目的として実施したものである。

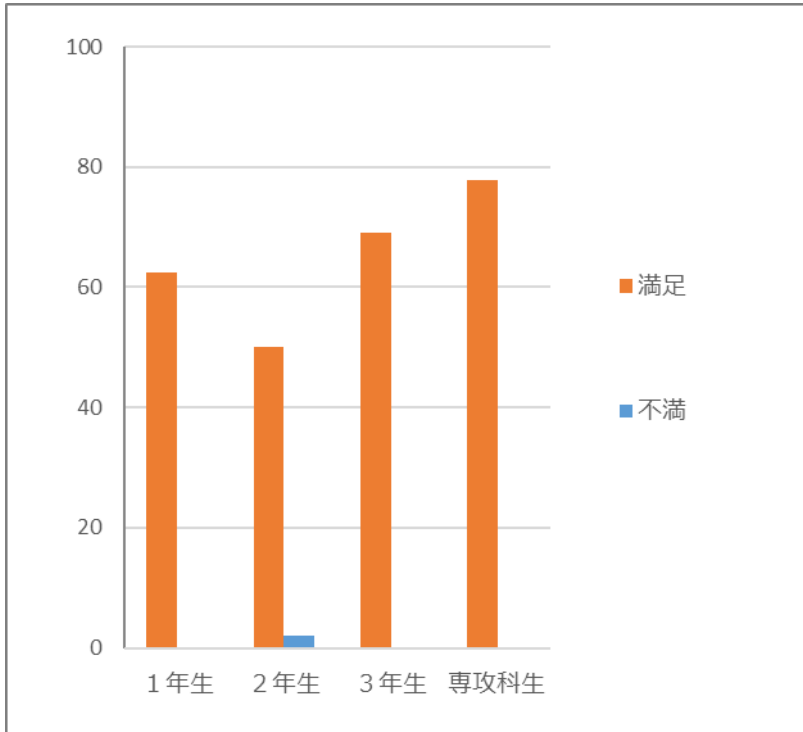
2025年度の結果では、「満足している」および「ほぼ満足している」と回答した学生が多く、事務室の窓口対応やサービスについて概ね良好な評価が示されている。また、「特に不満はない」とする回答も一定数見られ、全体として大きな不満は示されていない。一方で、「少し不満がある」や「不満だ」と回答した学生は少数にとどまっている。

事務室の窓口対応やサービスは、履修手続きや学生生活全般を支える重要な役割を担っている。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、学生の立場に立った分かりやすい対応や情報提供を継続するとともに、今後も学生の利便性向上に向けた取り組みを進めるための参考資料として活用していく予定である。

窓口サービスに対する満足度



満足度の比較 (%)



[問 49]個人で情報発信しているメディアについて利用しているものを選択してください。

(複数回答可)

1. 交流系 SNS (Facebook、X(旧 : Twitter)、mixi、LinkedIn、Google+等)
2. メッセージ系 SNS (LINE、Viber、WhatsApp、Wechat 等)
3. 画像系 SNS (Instagram、Snow 等)
4. 動画共有サイト (YouTube、TikTok、ニコニコ動画等)
5. ブログ (アメーバブログ、Seesaa ブログ等)
6. ホームページ
7. その他
8. どれも利用していない

問 49 表 全学年の選択肢別割合 (%)

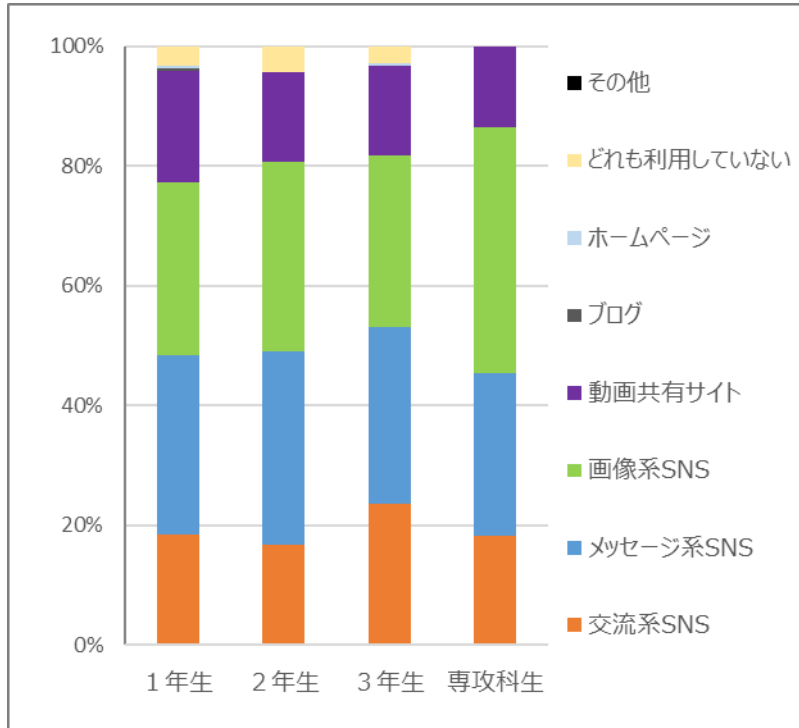
回答内容	今回	前回
1. 交流系 SNS (Facebook、X(旧Twitter)、mixi、LinkedIn、Google+ 等)	19.6	19.7
2. メッセージ系 SNS (LINE、Viber、WhatsApp、Wechat 等)	30.4	30.9
3. 画像系 SNS (Instagram、Snow 等)	30.1	29.8
4. 動画共有サイト (Youtube、TikTok、ニコニコ動画 等)	16.1	15.1
5. ブログ (アメーバブログ、Seesaa ブログ 等)	0.1	0.0
6. ホームページ	0.3	1.0
7. どれも利用していない	3.4	3.5
8. その他	0.0	0.0
合計	100	100

本設問は、学生が個人で情報発信やコミュニケーションに利用しているメディアについて把握し、学生の情報行動の特徴を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「メッセージ系 SNS」や「画像系 SNS」、「交流系 SNS」、「動画共有サイト」などを利用している学生が多く、日常的なコミュニケーションや情報収集、自己表現の手段として、複数のデジタルメディアを使い分けている実態がうかがえる。一方で、「ブログ」や「ホームページ」を利用している学生は少数にとどまり、「どれも利用していない」と回答した学生も一部存在しており、情報発信のスタイルには個人差が見られた。

学生のメディア利用状況は、学修や人間関係の構築、情報収集の方法にも影響を与える要素である。本設問の結果は、学生の情報行動を理解するための基礎資料として位置づけ、今後の情報提供の在り方や学生指導、リテラシー教育等を検討する際の参考資料として活用していく予定である。

個人発信メディアの利用用途



[問 50] タバコを吸いますか。(複数回答可)

1. 吸わない
2. 紙巻きタバコを吸う
3. 加熱式タバコを吸う
4. 電子タバコを吸う
5. 水タバコを吸う
6. 無煙タバコを吸う
7. 以前は吸っていたが、やめた

問 50 表 全学年の選択肢別割合 (%)

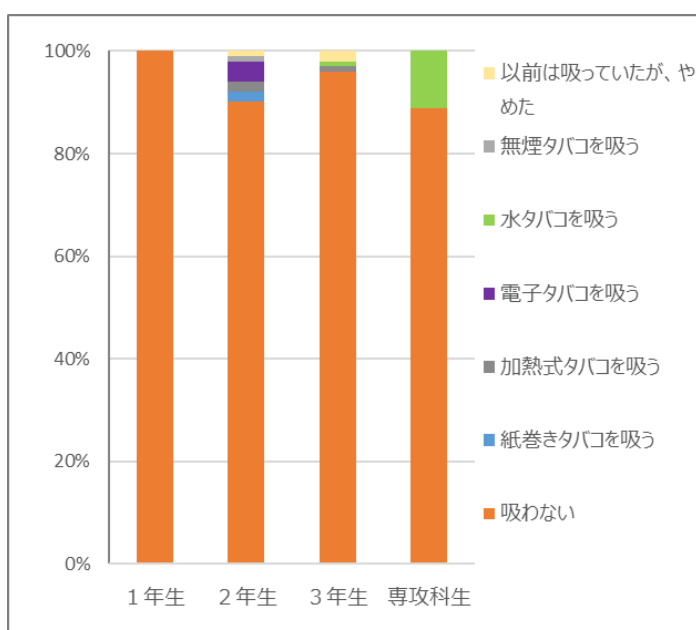
回答内容	今回	前回
1. 吸わない	95.0	96.9
2. 紙巻きタバコを吸う	0.7	0.3
3. 加熱式タバコを吸う	1.0	0.0
4. 電子タバコを吸う	1.3	1.7
5. 水タバコを吸う	0.7	0.3
6. 無煙タバコを吸う	0.3	0.0
7. 以前は吸っていたが、やめた	1.0	0.7
合計	100	100

本設問は、学生の生活習慣の一側面として、喫煙に関する状況を把握し、学生の健康意識や生活環境を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「吸わない」と回答した学生が大多数を占めており、多くの学生が日常的に喫煙を行っていない実態が示された。一方で、紙巻きタバコ、加熱式タバコ、電子タバコ等を利用している学生や、「以前は吸っていたがやめた」と回答した学生も少数ながら存在しており、喫煙に対する関わり方には一定の幅が見られた。

喫煙習慣は、健康への影響だけでなく、生活環境や周囲への配慮とも関係する要素である。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、学生の健康的な生活習慣に対する意識を尊重しつつ、今後も学生生活全体を理解するための基礎資料として活用していく予定である。

タバコを吸う習慣



[問 51]大麻、覚せい剤、危険ドラッグ等の薬物について選択してください。(複数回答可)

1. 使用したいと思わない
2. 使用してみたいと思ったことがある
3. 友人・知人で使用した人を見た(または聞いた)ことがある
4. 使用について誘われたことがある

問 51 表 全学年の選択肢別割合 (%)

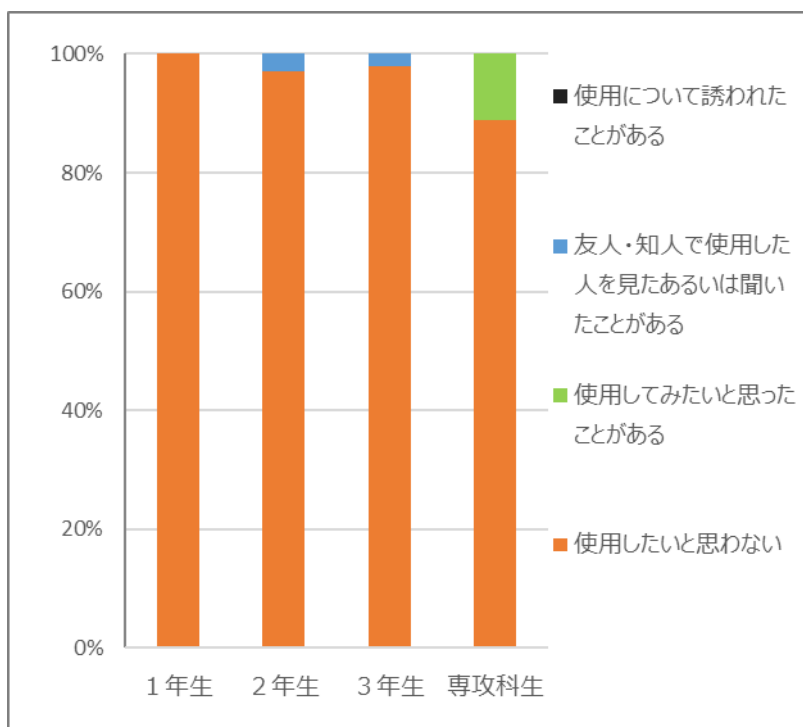
回答内容	今回	前回
1. 使用したいと思わない	98.0	98.6
2. 使用してみたいと思ったことがある	0.3	0.3
3. 友人・知人で使用した人を見たあるいは聞いたことがある	1.7	1.0
4. 使用について誘われたことがある	0.0	0.0
合計	100	100

本設問は、大麻、覚せい剤、危険ドラッグ等の違法薬物に対する学生の認識や、周囲の状況について把握し、学生の安全意識や健全な生活環境を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「使用したいと思わない」と回答した学生が大多数を占めており、違法薬物等に対して強い拒否意識を持っている学生がほとんどであることが示された。一方で、「周囲で使用した人を見聞きしたことがある」や「誘われた経験がある」と回答した学生も少数ながら存在しており、学生を取り巻く環境には一定の多様性があることがうかがえる。

本学短期大学部歯科衛生学科では、薬物乱用防止を含む学生の安全管理の一環として、2024 年度入学生より、入学時に警察署と連携した「安全管理講習会」を継続的に実施している。本講習会では、警察官を講師として迎え、違法薬物や闇バイトの危険性、具体的な被害事例等について説明が行われており、学生の初期段階からの意識啓発を図っている。本設問の結果は、こうした取り組みも背景として、学生一人ひとりが薬物に対して適切な判断を下す意識を有していることを示すものと考えられる。今後も、本学短期大学部では、関係機関と連携しながら、学生が安全で健全な学生生活を送ることができるよう、啓発活動や情報提供を継続していくための基礎資料として本設問の結果を活用していく予定である。

大麻・覚せい剤などの薬物について



[問 52] ボランティア活動に参加したことがありますか。

1. ある
2. ない

問 52 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. ある	33.9	35.8
2. ない	66.1	64.2
合計	100	100

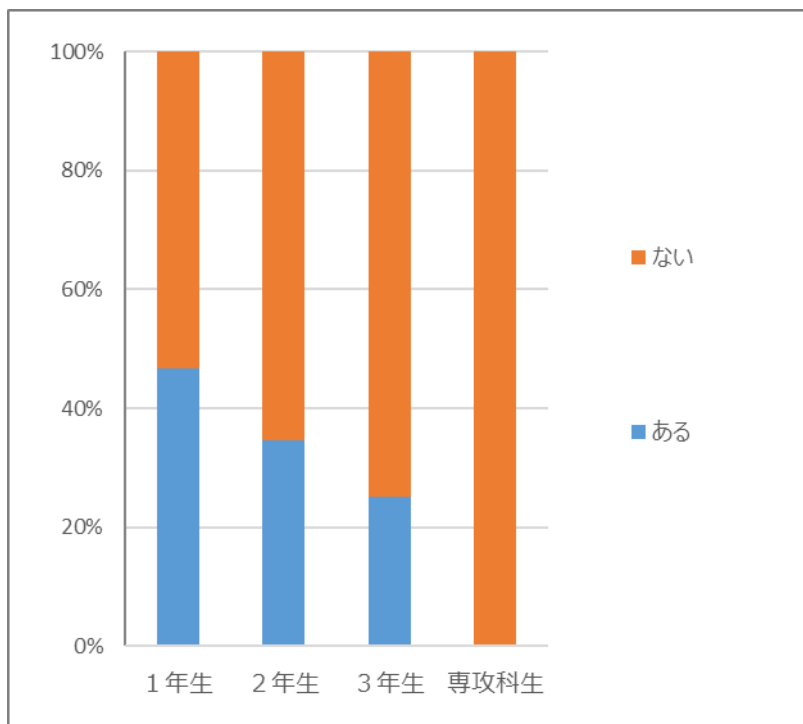
本設問は、学生がこれまでにボランティア活動へ参加した経験の有無を把握し、学外での社会的活動への関与の実態を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「参加したことがない」と回答した学生が多くを占めており、現時点ではボランティア活動への参加機会が限られている学生が多いことが示された。一方で、「参加したことがある」と回答した学生も一定数存在しており、学生の中には、学修や学生生活と並行して社会活動に取り組んでいる例も見られた。

ボランティア活動への参加状況は、学生の関心や時間的余裕、情報へのアクセス状況な

ど、さまざまな要因によって左右されるものである。本設問の結果は、学生の学外活動の実態を把握するための基礎資料として位置づけ、今後の学生支援や情報提供の在り方を検討する際の参考として活用していく予定である。

ボランティア経験の有無



[問 53] ボランティア活動に参加しようと思いませんか。

1. 参加しようと思う
2. 参加しようとは思わない

問 53 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 参加しようと思う	36.9	42.0
2. 参加しようとは思わない	63.1	58.0
合計	100	100

本設問は、今後のボランティア活動に対する学生の参加意向を把握し、学生の社会的活動への関心や意識の側面を理解することを目的として実施したものである。

2025 年度の結果では、「参加しようとは思わない」と回答した学生が多くを占めてお

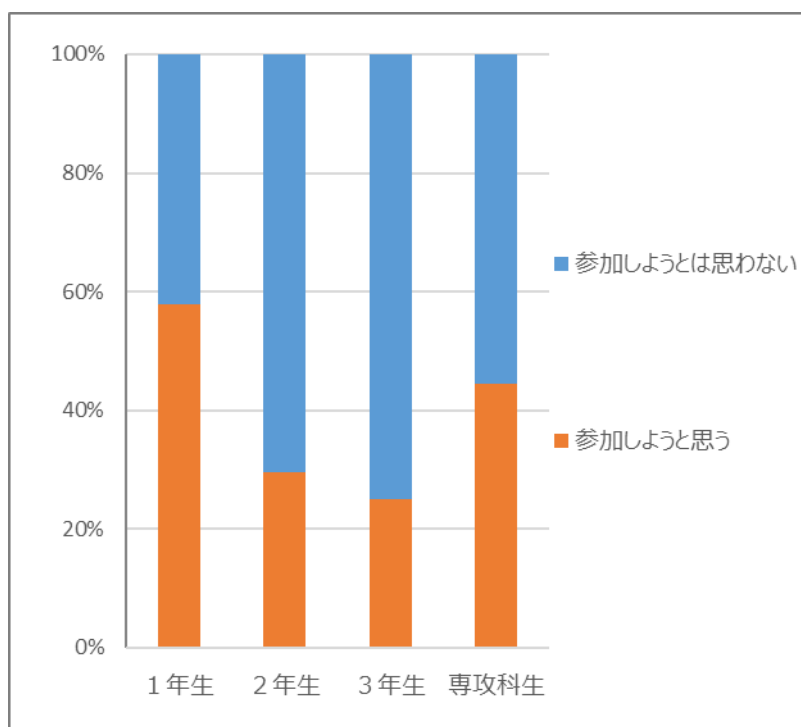
り、現時点ではボランティア活動への積極的な参加を想定していない学生が多数であることが示された。一方で、「参加しようと思う」と回答した学生も一定数存在しており、機会や条件によってはボランティア活動への関心を持つ学生がいることもうかがえる。

学年別に見ると、1年生では「参加しようと思う」と回答した学生が比較的多い一方、学年が上がるにつれて「参加しようとは思わない」と回答する割合が増加する傾向が見られた。

これは、学年進行に伴う学修・実習負担の増加により、学生が学外活動に割ける時間が制約されている状況を反映したものと考えられる。本設問の結果は、学生の社会活動への意欲が初年次に高く、学修状況と密接に関連していることを示唆している。

ボランティア活動への参加意向は、学生の関心分野や学修・実習の状況、時間的余裕など、さまざまな要因によって左右されるものである。本設問の結果は、学生の意識や関心の現状を把握するための基礎資料として位置づけ、今後の情報提供や学生支援の在り方を検討する際の参考として活用していく予定である。

ボランティアへの参加意思



[問 54]過去にハラスメントをどこかで受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 学外 (アルバイト先も含む)
2. 通学途中

3. 学内のクラブ・サークル
4. 学内の教室
5. 学内のその他の場所
6. 受けたことがない

問 54 表 全学年の選択肢別割合 (%)

回答内容	今回	前回
1. 通学途中	8.4	7.0
2. 学内のクラブ・サークル	1.3	0.7
3. 学内の教室	0.3	0.3
4. 学内のその他の場所	0.3	0.3
5. 学外（アルバイト先も含む）	0.7	0.3
6. 受けたことがない	88.9	91.3
合計	100	100

本設問は、学生が過去にハラスメントを受けた経験の有無や、その状況について把握し、学生が安心して学生生活を送ることができる環境整備に資する基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2025年度の結果では、「受けたことがない」と回答した学生が大多数を占めており、多くの学生が日常生活においてハラスメントを経験していないことが示された。一方で、少数ではあるが、「通学途中」や「学外（アルバイト先を含む）」などにおいてハラスメントを受けた経験があると回答した学生も存在しており、学生を取り巻く生活環境には多様な側面があることがうかがえる。

ハラスメントに関する問題は、学内外を問わず、学生の心身や学修環境に大きな影響を及ぼす重要な課題である。本設問の結果を踏まえ、本学短期大学部では、学生が安心して相談できる体制や情報提供の在り方を含め、学生生活の安全と尊厳を守るための取り組みについて、今後も引き続き検討・整備を行うための基礎資料として活用していく予定である。

ハラスメントの経験

